


Glee Club



Yoshisane Toku.

Glee Club
創立80周年記念定期演奏会



Doshisha College Song

*One purpose Doshisha, thy name
Doth signify our lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine
Tho' through the world we wander
Far and wide
Still in our hearts thy precepts shall abide*

*Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
We'll strive to live the life divine
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood*



同志社グリークラブ

創立80周年記念定期演奏会

1984年12月17日(月)新宿文化センター大ホール
1984年12月21日(金)大阪ザ・シンフォニーホール

後援 同志社校友会東京支部・東京クローバークラブ・同志社グリークラブOB会

御挨拶

本日は、お忙しいところ、私達同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございました。

今年は、80周年ということで、部員たちも力のこもった練習をしてまいりました。しかし時には、伝統に押し流されたり、惰性に陥ったりしました。そのたびごとに私達は、共に苦勞を乗り越え、音楽に真正面から取り組んできたつもりです。歌が好き、ただそれだけで、私達は、歌にすべての情熱を注いできたのです。今宵は、この情熱と日頃の練習成果が一体となって、美しい音楽を歌うことができ、皆様にも少しでも感動していただけたならこの上ない喜びでございます。

最後になりましたが、今日まで私達を熱心に御指導下さった諸先生方、また東京クローバーを始めとする諸先輩方、その他御協力いただきました関係各位に、心から御礼申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

部員一同

木 枝 燦

同志社大学長

同志社グリークラブ創立80周年を心からお祝い申し上げます。

同志社には、学生諸君が思い集い、豊かな情操を育むため、より実りある学生生活をおくるため、不断の精進を積んでいる音楽団体が数多くあります。そのなかでもわがグリークラブは、抜きん出て長い歴史を有し、男声合唱の粋を求めて情熱を燃やす演奏活動を続けております。毎年恒例の定期演奏会をはじめ、他大学との交歓演奏会、各地への演奏旅行など、その活躍はまことに幅広くめざましいものであり、音楽をとおして人々の心に爽やかな風を送りこんでまいりました。

今宵は、こよなく合唱音楽を愛し、ひたむきに精進してまいりましたグリーメンが、胸をふくらませ、光を顔にたたえて、日頃の練磨の成果を心ゆくまで歌い、みなさまにご満足いただける演奏を披露してくれるものと思います。

どうかみなさまにおかれましては、心耳を傾けていただき、今後ともご指導、ご鞭撻を下さるようお願い申し上げます。

同志社は創立いらい109年の歴史をもつが、わがグリークラブは建学後30年ほどのちに創部されて今日まで80年の歩みを続けて来た。同志社は自由の学園といわれるが、およそ学校であれば、学問の自由、大学の自治、自由な学風を謳わぬところはなかろう。しかし問題はその自由が真に存在の变革に根ざす内発的なものかどうかであろう。新島襄の掲げた理念はそれであった。グリークラブもまたこの理念に深く培われつつ、80年の歳月を歌い続けて来た。われわれの歌う歌は「新らしき歌」であるとの私かな自負をもって。この伝統は、さらに自営的に将来に向って継承されていかねばならない貴重な遺産である。

この80周年記念演奏会は、東京と大阪で開催される。とくに東京公演に当って御後援頂いた各方面の皆様衷心お礼を申し上げます。こよいの演奏が、真に同志社グリークラブの精神的精進が技術的練磨の極において実証されるものであることを願っている。

日下部吉彦

関西合唱連盟理事長
音楽評論家
同志社グリークラブOB

去る11月4日、同志社グリー創立80周年記念コンサートとパーティが、OBのクローバークラブとの共催で、京都で開催されました。そのコンサートで、マルシュナーのStändchenに合せ、金剛流の能舞が舞われました。私は、その舞台の美しさに、思わず見とれてしまいました。すばらしいアイデアです。終演後のパーティで、関学グリーOB代表の今川さんが〈同志社さんは、昔から奇抜な試みをする〉と、賛辞をのべておられました。

確かに、私のいたころ（昭和20年代）から、同志社グリーには、何か斬新な気風があったように思えます。伝統の重みで、あまりにもガッチリ固めている関学グリーに負けないためには、やはり、何か新しいことをやらねばならぬ、そういった必要もあったのでしょう。ともかく、互いに、よきライバルとして、個性的であったのです。

個性的という意味では、本日の客演指揮者浅井敬壹君ほど、個性的な指揮者はいないでしょう。先日の全日本合唱コンクールを、通して聴いてみても、よくもまあ、同じような曲を、同じように演奏する類型品の多いなかで、彼の指揮する団体は、やはり、ひと味違いました。さらに同志社グリーでは、浅井君より十数年後輩の指揮者富岡健君もまた、個性的です。そして、このような個性的路線の先祖ともいべき人が、福永陽一郎さんであったことは、いうまでもありません。

今夜は、この3人の競演です。さぞや見もの、聴きものでしょう。東京、大阪での定演が、成功することを祈っています。

菊花薫る11月の初め、同志社グリークラブ80周年を記念してのクローバー・クラブの演奏会が京都で行なわれました。同志社グリーのOBたちが、老いも若きも同じステージに上っての歌声は、とてもたのしい時間を客席の私どもにも与えてくれました。なかでも、80年の軌跡を彩る8人の指揮者のステージは深い感銘を与えてくれました。いずれも在学時代は学生指揮者として君臨してきた人びとで、今なお、或いは、現役時代以上に立派な指揮者としての登場でした。昨今の大学合唱団の並みいる学生指揮者のなかで、果してこの8人の方に追いつく学生指揮者が何人輩出するだろうかと思いつつも、流石、80年の歴史を誇る天下の同志社グリークラブだ、とあらためてその重みをずっしりと感じることが出来たのです。

さて本体の同志社グリークラブの演奏会、ことしは、東京と大阪で行なわれるそうですが、お膝もとの京都で行なわれないことを正直なところ淋しさを感じています。ホールが取りにくいことが最大の原因だということを重ね承知しながらも、やはり不満なのが本音です。とはいっても、プログラムを揮拳すると、技術顧問の福永陽一郎先生も、お元気で振って頂けそうだし、また、上述の8人の指揮者のうち、浅井敬壹君と富岡健君がそれぞれステージずつ受け持たれるという……。まさに豪華けんらんの大晩餐会です。現役の高橋君も、偉大な先輩たちを必死に追いかけて、次の歴史を作るにふさわしい演奏会をして下さい。

80周年記念演奏会おめでとうございます。すばらしい歴史を創ってこられた多くの先輩方に深い敬意と謝意を捧げます。

遠 藤 彰

同志社グリークラブ顧問

松 本 寛 二

同志社グリークラブOB会会長

「すごいものになったなー」

同志社にグリークラブが誕生して、今年で八十年になった。

そのお祝いを盛大にやろうじゃないか、と十一月四日には、OBたちが全国から京都にかけつけ、OB合唱団のクローバークラブが中心になった記念演奏会と大パーティーを開き久しぶりにグリーメンに帰ったばかりだが、こんどは現役の諸君が、今年の定期を八十周年記念演奏会として、東京は新宿文化センター、大阪はザ・シンフォニーホールの大ホールを舞台に開催するという。実に楽しみだ。

私は四年前から東京住いとなり、それまでのように同志社グリーの諸君との会合や演奏会に出かけて行くことは少なくなってしまったがそれでも年一度の定期と東西四連だけは何とかして出ていく。どうしても欠かせないからだ。

そして、その都度思うことは、「すごいものになったなー」のひと言である。

当然のことながら三十名足らずのメンバーで演奏会を開いたり、国内の演奏旅行で大満悦していた当時とくらべてみてのこどだが……。

それが今日では総勢百名を越す大メンバーとなり、国内どころか遠くはアメリカ、中国、そして音楽の本場ヨーロッパにまで遠征して、その都度、絶讃を博したというのだから、すごくなったなあ……と言わざるを得ないだろう。

それだけに、その間の歩みというか、またそれ以前を含めた八十年の歴史は、ただ単に同志社だけでなく日本の合唱界にとっても、実に貴重な歳月だった、と言っても決して過言ではないように私には思えてならないのです。

きょうは、その八十年の結実が披露される。その歌声を楽しみに待っているのは決して私ひとりではないだろう。そしてまた「すごいものになったな……」と、ひと言思わせてくれたら、もう何も言うことはない。がんばって下さい。ご盛會を祈りながら。

関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会の御開催を部員一同心よりお祝い申し上げます。

貴団と我が団とは良きライバル同志であり、ステージ上では熱い火花を飛ばしてきた仲であります。しかしステージ以外では共に酒をくみかわす良き友でもあります。同志社グリークラブの古くから脈々と受け継がれているその素晴らしいハーモニーは私共の刺激となり血を騒がせるのです。その同志社グリークラブも今年で創部80周年。これからもその伝統を継承され、そしてますます素晴らしい演奏をされることと信じております。

今宵の演奏会は部員全員で聴かせて頂きます。皆様のカのこもったステージは私共を興奮させ、新たな闘志を湧き起こしてくれることでしょう。

最後になりましたが今宵の演奏会の御成功を心よりお祈り申し上げます。

早稲田大学グリークラブ

同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会の御開催に、部員一同、心からお慶び申し上げます。

東西四連の良きライバルであり、良き友でもあります貴団の演奏会が東京に拝聴できますことは、我々早稲田のグリーメンにとりましてはこの上のない喜びでございます。常日頃、東京と京都という遠距離のためにお会いする機会が少ないのですが、今年の東西四連の後の貴団との“同早会”で飲み明かして以来、貴団との友情はますます深くなってまいりました。80年という長い歴史の上で培われた重厚な“同志社トーン”は、我々を感動の渦に巻き込み、ライバルとして情熱を奮い起こすことでしょう。今宵もきっと聴衆を感動の世界に導いて下さることと我々は確信しております。

最後に、今宵の演奏会の御成功と80年の歴史を土台に今後ますます発展されることを合わせてお祈り申し上げます。

慶應義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団

創立80周年記念定期演奏会の御開催を、ワグネリアン一同、心からお慶び申し上げます。

東西四連で御一緒しているものの、客席から拝聴する機会がめったにない私達は、今年こうして東京にいながら皆様の演奏に接することができることを大変うれしく思います。

80年に亘る歴史は決して平坦なものではなかったことでしょう。しかし若い情熱は不可能を可能にしながら、確固たる伝統を形づくってきたにちがいないと思います。音楽に対する真摯な姿勢と深い愛情とに裏打ちされた緻密なアンサンブルと温もりのある響きは、その証しに他なりません。80年の歴史と伝統は、今宵も曲たちに豊饒な香りといわいの味を、私達を心ゆくまで満足させてくれることでしょう。期待しています。

最後になりましたが、福永陽一郎、富岡健、浅井敬壹、大久保昭男先生をはじめ諸先生方の御指導の下、今後ますます飛躍発展なさることをお祈り申し上げます。

立教大学グリークラブ

同志社グリークラブの皆様、創立80周年記念定期演奏会の御開催を心よりお祝い申し上げます。昨年、今年と、交歓演奏会で御一緒していただいている皆様、今年、本拠地である関西に加え、東京でも演奏会を開かれるとお聞きし、立教グリーメン一同、今日の日を大変心待ちにしておりました。日頃より演奏旅行、合同演奏会と、幅広く御活躍の皆様方も、やはりこの日にかかる思いはひとしおのことと思います。一年間の集大成である今宵、日頃の練習の成果を思う存分発揮され、歴史と伝統に支えられた同グリー魂を一杯歌いあげてください。最後になりましたが、今後とも貴団が、良きライバルとして、また、同じ合唱を愛する者として、益々発展されますことを部員一同、心よりお祈り申し上げます。

DOSHISHA COLLEGE SONG

作詩 W.M.Vories
作曲 Carl Wilhelm

I. MESSE SOLENNELLE "SAINT CECILIA"

- 1. Kyrie
- 2. Gloria
- 3. Credo
- 4. Sanctus

作曲 C. F. Gounod

指揮 富岡 健
ピアノ 長田育忠
ソプラノ 住山玖爾子
オルガン 宮城律子

II. Zigeunermelodien (ジプシーの歌)

- 1. Mein Lied ertönt
- 2. Ei, wie mein Triangel
- 3. Rings ist der Wald
- 4. Als die alte Mutter
- 5. Reingestimmt die Saiten
- 6. In dem weiten, breiten, luft'gen Leinenkleide
- 7. Darf des Falken Schwinge

作詞 Adolf Heyduk
作曲 Antonín Dvořák

指揮 高橋圭二
ピアノ 長田育忠



INTERMISSION

III. Lieder eines fahrenden Gesellen (さすらう若人の歌)

- 1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht
- 2. Ging heut Morgen über's Feld
- 3. Ich hab' ein glühend Messer
- 4. Die zwei blauen Augen

作詩・作曲 Gustav Mahler

指揮 福永陽一郎
ピアノ 久邇之宜

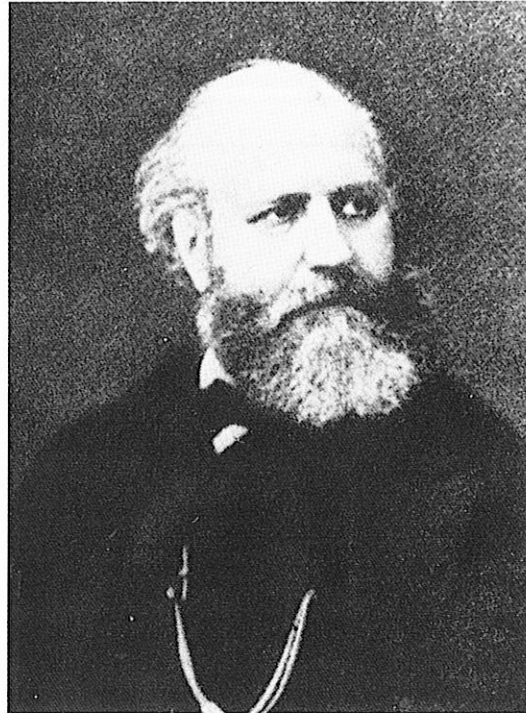
IV. 男声合唱曲「岬の墓」

作詩 堀田善衛
作曲 團伊玖磨

指揮 浅井敬壹
ピアノ 久邇之宜

全編曲 福永陽一郎

MESSE SOLENNELE "SAINT CECILIA"



Charles Francois Gounod

「聖チェチーリアのための荘厳ミサ」 Messe solennelle "Saint Cecilia"

●グノーの生涯

グノーは、当時有名な彫刻家であった父とすぐれたピアニストであった母との間に1818年、パリで生を受けた。5歳のときに父を失ったが、それ以来母から音楽教育を受け一方、その環境から文学、芸術についての教養を身につけた。1836年に彼は音楽に専念することを志した。若い時代の彼は、オペラの影響を多大に受けたが、主にカンタータに没頭していた。しかし1839年からの3年間に渡るローマ留学中、彼は伝導師ラコルデールの宗教的感化を受け、宗教音楽に心を打ち込むようになったのである。

パリに帰ったグノーは、当時パリを風靡していた劇場音楽を意に介せず、もっぱら宗教音楽に没入し、海外伝導教会の礼拝堂の合唱長とオルガン奏者を勤めるとともに神父になる決心をして神学の勉強を始めたのである。

それからの5年間は神学研究に没頭したため作品もないが、それらの集大成が、沈黙を破り、1851年に発表された、「荘厳ミサ曲」となって現われたのである。「荘厳ミサ曲」は、ロンドンで演奏され、英国紳士たちの人気を博した。この曲の一部を手直しし、書き加えられたものが、1855年に完成した「聖チェチーリアのための荘厳ミサ」であり、サン＝サーンスはこの曲を「19世紀後半のフランス音楽の代表作である」と激賞した。

その後1858年、パリ、リリック劇場における「ファウスト」の成功は、彼を一躍オペラ作曲家として名をなさしめたが、晩年にはふたたび宗教音楽に回り、1893年にパリで世を去るまでカトリック教徒として宗教音楽に力を尽した。

●「聖チェチーリアのための荘厳ミサ」について

聖チェチーリアは音楽の守護神で、ローマ殉教者の聖女の中では、最も有名な1人である。彼女が潔白の徳に殉教の冠をあわせいただいたのは3世紀末のことで、殉教の日は9月16日とされている。

本日は福永陽一郎先生による男声合唱への編曲より、Kyrie、Gloria、Credo、Sanctusを演奏いたします。

MESSE SOLENNELLE "SAINT CECILIA"

Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

Gloria

Gloria in excelsis Deo
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis
Laudamuste. Benedicimuste.
Adoramuste. Glorificamuste.

Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus Rex coelestis Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
suscipe deprecationem nostram Qui sedes ad dexteram.
Patris, miserere nobis. Quoniam tu solus Sanctus.
Tu solus Dominus. Altissimus Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris Amen.

Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem.
factorem coeli et terrae, visibilium omnium et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum, Filium Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula, Deum de Deo.
lumen delumine, Deum verum de Deo vero, genitum non
factum, consubstantialem Patri, per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines, et propter nostram salutem
descendit de coelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine, et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.
Et resurrexit tertia die secundum Scripturas; Et
ascendit in coelum, sedet ad dexteram Patris, et iterum
venturus est cum gloria judicare vivos et mortuos: cujus
regni non erit finis: Et in Spiritum, Sanctum, Dominum et
vivificantem, qui ex Patre Filioque procedit, qui cum Patre
et Filio simul adratur et conglorificatur, qui locutus est per
Prophetas: Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptismum in remissionem peccatorum,
Et expecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam ventri saeculi. Amen.

Sanctus

Sanctus. Dominus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria tua: Hosanna in excelsis

あわれみの讃歌

主よ 憐み給え。
キリストよ 憐み給え。
主よ 憐み給え。

栄光の讃歌

いと高き天においては神に栄光あれ。
地上においては善意の人々に平安あれ。
我らは主をほめたたえ、主を祝し、
主に栄光を帰し奉る。

我らは御身の偉大な栄光のために主に感謝し奉る
主よ、神よ、天の主よ、全能の神なる御父よ。
御独子なる主、イエス・キリスト
神なる主、神の羊、御父の御子
世の罪をのぞき給う御者 我らを憐み給え。
我らの願いをきき給え。御父の右に座し給う御者
我らを憐み給え。御身は唯一の聖なる御者
唯一の主 イエス・キリストにて在す。
聖霊と共に神なる御父の栄光においてアーメン。

信仰宣言

われは信ず唯一の神、全能の父、天と地、
見ゆるもの見えざるものすべての造り主を。
われは信ず唯一の主 イエス・キリスト、神の御独子、
よろず世の先に父より生まれし者を。神よりの神、
光よりの光、真の神よりの真の神、造られずして生まれ、
万物の造り主なる父と一体なる者を。
主はわれら人類のため、またわれらの救いの
ために天より下り給う。
聖霊によりて処女マリアより肉体を受け、
人となり給えり。
われらのためにポンティオ・ピラトのもとで
十字架につけられ、苦しみを受けて葬られ給えり。
聖書にありし如く三日にして蘇り、天に昇りて
父の右に座し、栄光とともに再び来たりて生ける
人と死せる人を裁き給う。またその国には
終ることなし。われは信ず、聖霊にして生命の
与え主なる者、父と子とより出て、父と子とともに
拝されたたえられ、予言者によりて語り給いし者を。
また、唯一の聖にして普遍なる使徒の教会を信ず。
罪の赦しのためなる唯一の洗礼を認め、
死者の蘇りと、来世の生命とを待ち望む。
アーメン。

感謝の讃歌

聖なるかな。あらゆる万軍の神。
主の栄光は天地に満つ。天のいと高き所にホザンナ

Zigeunermelodien op.55

「メロディ」

「口ずさむ」という表現が好きだ。何かのはずみでふっと声に出して歌ってしまう。そんな「うた」がドヴォルジャークは欲しくてたまらなかったのだろう。彼の作品には、どれも自身の疼く様な旋律が注ぎ込まれている。彼にしてみれば、いかなる思いも肉声を持った「うた」として溢れ出たに違いない。ちょっとしかめっ面をして鼻歌を歌いつつペンをとる姿が目にかぶようだ。

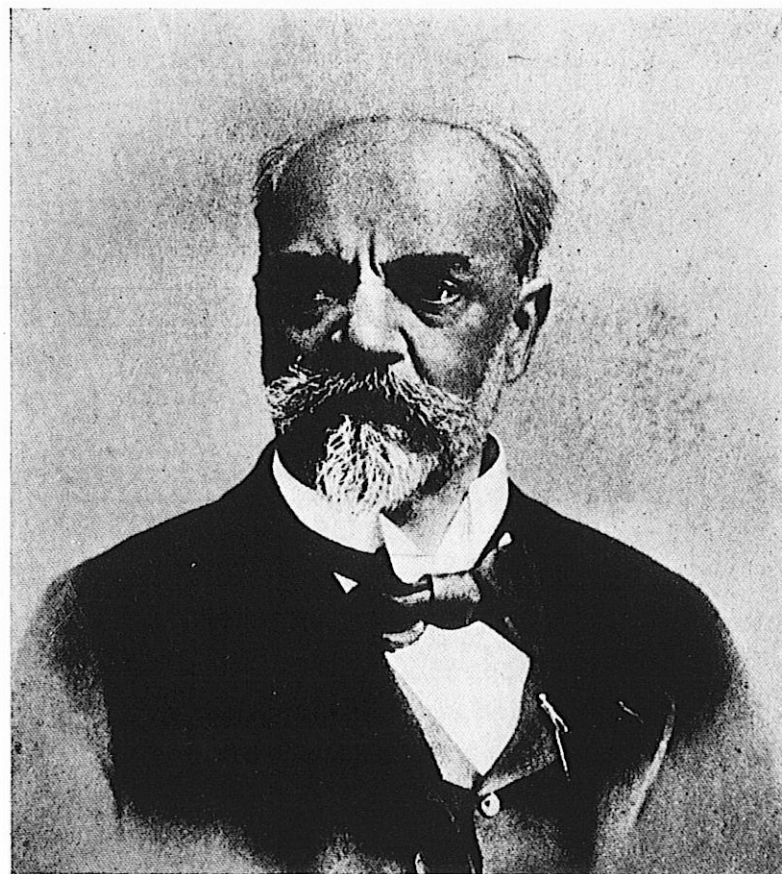
「Cigánske Písne (Zigeunermelodien) op.55」は1880年（作曲者39才）の1月中に僅か5日間で書きあげられたという。完成した作品はドイツのテノール歌手G・ヴァルターに献呈された。この作曲期間の前後には「ヴァイオリン協奏曲 op53」も書かれている。原詩はチェコ語であるが、作詩者であるA・ヘイドック（1835～1923）に独語訳をさせた故に、ややぎこちない箇所も見受けられる。

ドヴォルジャークには総数が百数十に及ぶ歌曲があり、この「ジプシーの歌」の他にも、「恋愛歌曲集」や「聖書歌曲集」等、比較的有名なものもある。だが、その旋律の豊かさにおいて「ジプシーの歌」は傑出している。駆けぬけてゆくような生の謳歌、そして好戦性。時おり垣間見せる感傷やユーモア。自由にして流浪の民ジプシーの生き様を余す所なく歌に織り込んである。これらの要素が遍く世の人々の心をとらえて離さない。切れば血の出るような「うた」が並んでいる。

また、特筆されるべきは伴奏部の充実であろう。ジプシー音楽には欠かせぬツィンバロンやトライアングルの音を暗示し、随所に舞曲風のリズムを見せる。印象的なアルペジオやきらめくような短前打音。歌唱部のみならず、伴奏までが歌うべく強烈に自己主張してみせる。

人間は音楽に対して、その「ハーモニー」や「リズム」をとりあげてあらゆる実験を繰り返して来た。だが何となく、メロディはどこかへ置き忘れてしまったようだ。旋律には肉声に置き換えられる温もりが欲しい。今日、声に出して歌えるメロディの乏しさ貧しさにとまどいを覚えてしまうほどだ。

同志社グリーンが今夜ステージ上で、血の通った「うた」を歌うことができれば、この上ない幸福である。



Antonín Dvořák



Zigeunermelodien (ジプシーの歌)

1. わが歌ひびけ

おれの歌がひびく、
愛の讃歌が——
一日が暮れそめる時に、
そして苔が、
しおれた葎が
露の真珠をひっそりと飲む時に。

おれの歌がひびく、
旅の喜びに満ちて、
緑の森の枝の蔭で、
プスタ〔草原〕の広大な野っぱらで、
たのしい歌声をおれはひびかせる。

おれの歌がひびく、
時には愛に溢れて
荒野に嵐がすさぶ時に、
生の最後の呼吸のために
兄弟の胸がふくらむ時に。

2. きけよトライアングル

どうだい、おれのトライアングルは、
なんとみごとに鳴ることだろう！
こんなひびきを耳にすれば
心もわかるかと死んでゆける！

心もわかるかと死んでゆける、
トライアングルのひびきが道連れなら！
歌よ、輪舞よ、愛よ、
みんなおさらばだ！

3. 森はしずかに

あたりの森はひっそりと静まり、
おれの心は不安に高鳴っている。
黒い煙がたえまなく舞い降り、
おれの頬つべたを乾きあがらせる。

なあに、おれの涙は干上りはしない、
恋人の頬つべたを求めてやまない！
悩みを歌にすることのできるものなら
死を呪ったりはしないだろう。

4. わが母の教えたまいし歌

年老いた母が
おれに歌を教えた時に、
しよっちゅう、まつ毛に
涙をためていた。

いまおれが子供たちに
歌のけいこをさせていると、
しばしば日やけした頬をつたって
涙がひげの中にしたたってくる。

5. 弦を整えて

弦の調子をあわせろ、
若者よ、輪になって踊れ！
今日はたのしく、
そしてあしたは？
昔の歌に心いためる！

いずれまもなくナイルのほとりで
ご先祖さまのお仲間入りだ、
弦の調子をあわせろ、
踊りにくわれ！
弦の調子をあわせろ、
若者よ、輪になって踊れ！

6. 軽い着物

巾ひろい、ゆったりと軽い
麻の着物にくるまっていたりと、
金や絹を身にまとうよりも
ジプシーたちは一層自由だ！

そうとも、金の紐つきジャケットは
やけに窮屈に胸をしめつけ、
放浪をこのむ自由な歌声が
ひびき出すのを邪魔してしまう。

それ故、歌のひびきに
喜びを感じる者は、
愚にもつかない黄金などは
地獄へ放りこんでしまうがいい！

7. 鷹は自由に

鷹の羽音は、タトラの山の
いただきをめぐるはためくがいい。
鷹は岩間の巣を、鳥籠と
とりかえたりするだろうか？

荒野を駆けめぐる
たくましい若駒が、
くつわや手綱を
嬉しがることあり得ようか？

ジプシーよ、自然がお前に
与えてくれたものがなにかあるか？
あるとも！ 自然はおれのために
自由な全生涯を創ってくれたのだ！

Lieder eines fahrenden Gesellen

世界的に、そうして日本でも、近來盛んに演奏されるマーラーの音楽のなかでも、歌曲「さすらう若人のうた」は早い時期からしばしば演奏され、親しみを持たれた曲である。さらに「第一交響曲」が交響楽団のレギュラーのレパートリーとして定着するようになると、なかに共通の主題がいくつも使用されていることから、マーラーを語るほどの人は、誰でもこの歌曲を知っているというふうになった。

「さすらう若人の歌」を男声合唱曲に編曲するアイデアは、かねてから歌曲を合唱用に編曲して大学の合唱団などにうたわせ、奥行き深い芸術に接する機会を増やしたいという意図を抱いていた畑中良輔教授のものであった。編曲が為されたのは1964年であるが、その年の畑中教授が指揮する慶應ワグネル男声合唱団が、スケジュール的に演奏できない状況であったので、いらか会合唱団が私の指揮で初演することになった。当時のいらか会のメンバー編成が、第一テノールの人数がすくないものであったので、そのような編成に適合するように編曲に工夫が為されている。初演は1964年8月15日に東京文化会館でおこなわれた。畑中教授がワグネル男声合唱団で演奏したのは、1968年になってからである。

詩と音楽の性格から、この曲は青年期の若者のあいだに多くの共感を呼ぶらしく、多くの大学合唱団の取り上げるところとなり、一般でもいくつもの男声合唱団が演奏した。原曲のづくりが、かなりポリフォニックなので、合唱曲としても演奏効果があり、私のこの種の編曲で、もっとも成功したものという評価を得てきた。慶應ワグネル男声合唱団が、1969年3月の第二回リンカーン・センター世界大学合唱祭においてこの編曲を演奏した結果、プリンストン大学とデューク大学のグリークラブによって、アメリカでも演奏された。

同志社グリークラブでは、私の指揮で、過去二回演奏している。自分の青春時代、昭和23年(1948)の頃からこの曲に魅せられ続けてきた私自身の、思い入れが強過ぎるためか、指揮していて、演奏に満足したことがない。畑中良輔教授はこの曲の名指揮者であり、きく度に感嘆するばかりだが、なかなかそのレベルに到達できない。今度こそは、といつも思っているのだが。

今回、同志社グリークラブの80周年記念のコンサートということで、自分にも団員にも、聴いてくださる方々にも、永く心に残る音楽をやりたいと思い、迷ったあげくの選曲で取り上げた。できるだけ平静さを保って、悔いのない演奏を成しとげたい。

福永陽一郎



Gustav Mahler

Lieder eines fahrenden Gesellen (さすらう若人の歌)

I. Wenn mein Schatz Hochzeit Macht (君がとつぐ日)

いとしいひとがとついでゆくと
しあわせそうにとついでゆくと、
悲しい日々が僕にやって来た。
ほの暗い小部屋の中に、
小部屋の中にとじこもって
いとしいひとを思って泣いた、
恋しいひとを思って泣いた!

青い花よ、しおれるな!
小鳥はやさしく甘い声で、
緑の原っぱで歌っている、
「ああ、なんてこの世は美しいんだ、
ピイチク、ピイチク、ピイチク」と。

鳥よ、歌うな! 花よ、咲くな!
春はすでにすぎ去ってしまった!
すべての歌声もやんでしまった!
夜に、眠りにつこうとしながら
ぼくが思うのは、この胸の苦しみ!

II. Ging heut Morgen über's Feld (露しげき朝の野辺に)

この朝、野原を通ったときに、
草の葉に露がおりていて、
陽気なうそ鳥が語りかけてきた——
「おはよう、ねえ、あなた、
いい日になりそうじゃありませんか?
すばらしい日にね、フユウ、フユウ、
この世はなんて素敵なんだろう!」

野原に咲いている釣鐘草の花も、
陽気な、機嫌のいいところを見せて、
チンコン、チンコン、鈴を振りながら
朝の挨拶を呼びかけてきた——
「いい日になりそうじゃありませんか?
チンコン、チンコン、いい気持ちだなあ!
この世はなんて素敵なんだろう!」

そして、折から陽の光を浴びて
この世がいっせいにきらめきはじめた、
みんな声をあげ、いろどりを帯びた、
あらゆるものが、陽の光を浴びて!
花も鳥も、大きいのも小さいのも!
「おはよう、いい日じゃありませんか?
ねえ、そうでしょう、素敵な日だ!」

それではぼくの幸福もひらけるといえるのか?
いや! ぼくは思う、
ぼくの人生に花咲くことはあり得ない、と!

III. Ich hab' ein glühend Messer (灼熱せる短刀もて)

ぼくは真赤に焼けたナイフを持っている、
一本のナイフを、胸の中に——
おお、なんという苦しみ!
そいつは深く突き刺さっている、
すべての喜びに、すべての楽しみに、
こんなにも深く、深く!

ああ、なんという凶悪な客であろう!
そいつは片時も休まず、片時も憩わない!
昼も休まない、夜も憩わない、
ぼくが眠っているときにさえ!
おお、なんという苦しみ!

ぼくは大空をふり仰ぐとき、
そこにふたつの青い眼を見る!
おお、なんという苦しみ!
黄いぼんだ野原を歩いていると、
ぼくは遠くから、風に吹かれる
ブロンドの髪を見る!
おお、なんという苦しみ!

ぼくは夢からさめるときに、
彼女の銀のような笑い声を聞く、
おおなんという苦しみ!
ぼくが黒い棺台に横たわって

二度と眼をひらかずにいられたらいいのに!

IV. Die zwei blauen Augen (君が青きひとみ)

ぼくの恋びとの青いふたつの眼が
ひろい世の中にぼくを追い立てた。
そのためにぼくは大好きな土地から
離れ去らねばならなかった。
おお、青い眼よ、なぜぼくを見つめたのだ?
ぼくに永遠の悩みと傷ついた心を残して!

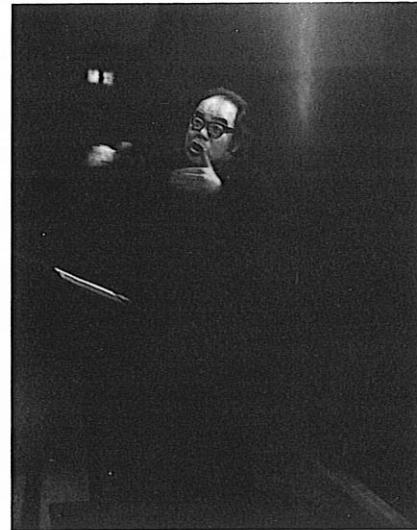
ぼくは、静かな夜の中を
暗い荒野を通って、町を離れた、
さよならをいってくれる人もなしに!
ぼくの道づれは愛と悩みだった!

道ばたに、一本の菩提樹が立っていて、
ぼくははじめて眠りの中に憩った!
花びらを雪のようにぼくに振りかける
菩提樹の枝蔭にいて、
ぼくは人の世の仕打ちを忘れた——
なにもかもが、ふたたびすばらしくなった!
なにもかもが、愛も悩みも、
この世も夢も、みんな、みんな!

男声合唱曲『岬の墓』

客演指揮 浅井 敬壹 プロフィール

京都に生まれる。第31代同志社グリーンクラブ学生指揮者。学生指揮者時代、福永陽一郎先生を顧問に迎え今日の同志社グリーンクラブの基礎を確立。卒業後、合唱団京都エコーを設立。現在、関西合唱連盟理事、京都府合唱連盟副理事長、日本合唱指揮者協会会員、住友金属混声合唱団常任指揮者、大丸京都合唱団顧問、同志社混声合唱団こまぐさ顧問、合唱団京都エコー常任指揮者、団長及び音楽監督。



メッセージ

私が、同志社グリーンを出て、早や22年が過ぎてしまいました。まさか、現役諸君を振れると思っていなかった私にとって、驚きであり、またこの上ない喜びです。このような私を呼んでいただいた福永陽一郎先生や健兄、そして現役諸君のお心づかいに心から感謝いたす気持ちでいっぱいです。

昨日、現役諸君といっしょに練習する機会があったのですが、非常に声がよく聞こえているのに驚きました。

今宵は、私にとっても思い出深い「岬の墓」をしかも最終ステージで演奏させていただきたいべんな名誉であるとともに緊張しております。はたして、どこまでいい音楽が作り出せるか心配ですが、成功することを心より祈っております。



『岬の墓』

もとのオリジナルである混声合唱曲『岬の墓』は、1963年の夏から秋にかけて作曲され、木下保指揮のCBC合唱団によって初演された。同年の芸術祭合唱部門で、芸術祭賞、文部大臣賞を受けた。

数あるこの作曲家の合唱曲のなかで、比較的初期の作品に当たるが、しかし最も勝れた音楽であるという定評が高い。詩はオリジナルで、死んでしまった過去、迷いと漂流の現在、光輝あるものとしての未来。こうした“時”のありかたを対置しながら、絶対の真理を見つめる者のきびしさを、墓、船、水平線、そして赤い花というふう具象化し、永遠の問いかけを提出したものである。

作曲者は、これを交響曲風とでも言えるようなパースペクティブで捉え、15分ばかりの演奏時間を持った大きな広がりを持つ曲に仕上げている。雄大なうねりのような線の主題が、全体をつらぬく中心的な楽想として終始あらわれるが、墓、船、赤い花などは、それぞれ個有のモチーフによって支えられており、言葉の具体性と照応している。水平線の彼方という“意味”は、やや平凡な上昇音階の利用で処理されていて物足りないけれども、美学的には正当なバランスを保っており、いささかも不自然さを感じさせない。

『岬の墓』は、混声合唱曲としてきわめて高度に完成した作品ではあるけれども、同時に、その内容が確保している精神は、完全に男性的なもので、いささかも女性的なところがない。外面の表情に現われる優しさにしても、濁々としたものでなく、線の太さのうえにあらわれる優しさである。語られる言葉はあくまでも男性のものである。この曲が混声合唱曲としてつくられたのは、合唱音楽の通常の形態をとったというにすぎないものと思われる。

岬の墓

堀田 善衛 詩

日は高く
海の辺の丘に
上って見下せば
きらきら光る入江の青に
休らう 白い美しい船
紺碧の空から舞い下りて
水に休らう美しい船

日は高く 海に
丘の辺に影一つのこさず
岩の間に咲く 赤い花
日は高く 影を奪い
透明な海の風に
この岬の白い墓

美しい船よ
大いなる白鳥のように
休らう美しい船よ
翼をひろげ船出せよ
深く滑らかに輝く別の大洋をめざして
波の調べにゆられつつ

この丘の辺の白い墓
影一つない真昼の丘に
白い墓
その墓の下にこそ
永遠の休らいと暗い影
暗き休らいはあり

美しい船よ 白い船よ
船出せよ
彼方にひろき水平の
その彼方へと

白い墓よ
その石の裂け目から
暗い影なる休らいの
ことばを語れ

日は高く
真昼の海と
真昼の丘の辺に
永遠は光とたわむれ
風は何を語るや
海は波立つ

白い船美しい船
白い 影なす墓の休らい
日は高く
丘の辺の白い墓は
美しい船を見詰めている

岩の間に咲く赤い花に
われら何を聞こう……………。



同志社グリークラブ技術顧問 **福永陽一郎**

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現・芸大）本科ピアノ科出身、井口基成、豊増昇氏にピアノを師事。在学中より東宝交響楽団（現・東響）で近衛秀磨氏の助手をつとめ、同氏に作曲法、指揮法、管弦楽法を師事。M・グリュット氏にオペラ指揮法を師事。

1951年藤原歌劇団に入団、同団常任指揮者として、'65年まで活躍。その間同団第三次渡米公演に同行。また、'59・'61・'63・'71年のNHKイタリア・オペラ来日公演に際しては、日本側代表指揮者として参加、副指揮・合唱指揮をつとめる。歌劇指揮者として広くその名を知られる一方、合唱界においても、'52年畑中良輔氏と共に東京コリアーズを設立し日本最高のプロの合唱団に育て、またアマチュアコーラスを30年にわたり積極的に指導。又、評論活動も多くの人々から注目をされ著書に「演奏の時代」（紀伊国屋書店）、「私のレコード棚から」（音楽之友社）などがある。合唱用の編曲は数百曲にも及ぶ。同志社グリー、早稲田グリー、法政アカデミー他、多くの合唱団を指揮する一方、藤沢市民交響楽団の常任指揮者をつとめ、'80年の藤沢市民オペラ「カルメン」の上演は多大な反響を呼んだ。

'83年同志社グリークラブヨーロッパ演奏旅行に同行。1979年ウィーン世界青少年音楽国際合唱コンクール審査員。

メッセージ

80周年記念の年に当たって

なんだかんだと言っているうちに、80周年の定期演奏会で指揮をすることになりました。わたしが同志社グリークラブの創立50周年の記念パーティに顔を出させてもらったのが、つきあいのごく最初でしたから、30年になるわけです。わたしが技術顧問という肩書で、直接に音楽づくりにタッチし始めて4年目に、一大イベントだった「創立60周年演奏会」があったのですが、それからだけでも20年の月日が経過したのです。そんなに長く、このつきあいを続けることができるとも思いませんでしたのに。

いま、振り返って考えますと、それは色々の、山あり谷ありの20年間でしたが、全体を通じて、大変な大仕事をやってきた、という実感がありません。たゞたゞ良い音楽をつくり出した。というその日その日の願望を、充たしたり充たせなかったりしながら、一日一日を消化してきただけという気がします。ひとつひとつの学年に、出来たことと出来なかったこととの、両方の思い出があり、それぞれの学年のグリーメンたちに、いちいち、強い想いが残っています。自分の人生の半分を共にしてきたこのグリークラブの存在の重みは、計量する言葉が無いほどずっしりと重いものですが、20年以上になるその間、この関係を重荷だともったことは一度もありません。同志社グリークラブは、私の人生の旅路の半分もの間、欠かせないみちづれだったのです。

半ば冗談のように、80歳まで生きていたい。そうすれば同志社グリーの100周年に会えるから。そう言っていたことがあります。この頃、先日の80周年記念パーティで大勢のみなさんとお会いしたりしていると、こうして毎日毎日を過ごしているうちに、いつの間にか100周年がきてしまっているのではないかと、など想像してしまいます。いままでの20年間、それを越えよう、越えなければならぬ、と意識した日はなかったのですから、これからの20年も、意識しないうちに過ぎるのではないかと。—— そういった気分のなかで、80周年記念の定期演奏会も、わたくしにとっては例年と同じ、たゞ良い音楽をやりたい、それだけの願いでステージに立つのです。 1984年12月

同志社グリークラブ指揮者 **富岡 健**



大阪に生れる。同志社大学にて法律を学んだのち、1974年より3年間、ウェーン州立大学音楽学部指揮専攻科に学ぶ。在学中は同校の指揮法、アンサンブルの助手をつとめる一方、デトロイト・ユース・シンフォニーの指揮者団の一員としても研鑽を積む。帰国後、各地の室内オーケストラ、合唱団の指揮に活躍。なかでもハイドン・モーツァルトの宗教音楽を積極的に取り上げ、声楽とオーケストラの融合に取りくんでいる。またオペラにも意欲をみせ、1984年より、関西二期会の副指揮者として活躍するほか、大阪喜歌劇楽友協会、滋賀県オペラ協会のオペラ活動にも参画している。

指揮法を福永陽一郎、若杉弘、H・ラングスフォードの各氏に師事。畑中良輔、手塚幸紀の両氏からも多くを学んでいる。現在、大阪芸術大学講師。

メッセージ

80周年記念定期演奏会に寄せて

記念すべき同志社グリークラブの第80回定期演奏会に、福永陽一郎先生、客演指揮者の浅井敬壺氏とともに、ステージをつとめさせていただけることを心からうれしく思っています。今年の秋は、私にとりまして喜びごちや、不幸が相次ぎ、落ちつかない日が続きましたが、なんとか、この演奏会の準備に取りかかることができました。現役のみなさんが側面からサポートしてくれたおかげです。紙面をかりて、御礼申し上げます。

さて、今年の定期演奏会には、先輩浅井敬壺氏を客演指揮者としておよびすることができました。余談ですが、やはり10数年前にOBの一人でいらっしやる日下部吉彦氏が、グリークラブの指導をされており、今回の浅井氏、私と三代の「うさぎどし」がグリークラブと密接なつながりができたことになりました。不思議な縁とはゆえ、心強いかぎりです。

浅井氏の強烈なパーソナリティと、ナイーブな音づくり、そして音楽に対する限りない愛情等々現役のみならず、私にとりましても大きな刺激でございます。多くの収穫を得ることができました。

先だって、OB主催の80周年記念演奏会がございましたが、80年のあいだに培われてきた人との交わりの裾がりにおどろくとともに、千名近いOBお一人お一人が今なおグリークラブに対して深い愛情をもって見守ってくださっていることに感動いたしました。現役の底知れぬエネルギーと、OBの応援や支えが融合して、グリークラブが、90年、100年と前進しつづけることを心から願っています。

今日、私はソプラノの宮城律子さん、オルガンの住山玖蘭子さん、ピアノの長田育忠さんの協力を得まして、グノーの聖チェリアミサを演奏いたします。この曲の初演は私が高校生でした。これが福永先生の指揮で発表されました。二回目は、私が大学2年の東西四大学の演奏会で客演の宇宿允八氏による指揮でした。このときは東京での四連だったのですが、わずか40人ほどのメンバーだったにもかかわらず、東京まで関西フィルの前身であるヴィエール・フィルのメンバー40人を連れて演奏いたしました。大それたことをやってのけたものです。今日の演奏は同志社グリーにとって三度目のものです。企画の段階でCredoまでと考えていたのですが、記念式典という意義をふまえてSanctusを加えました。

学生指揮者 **高橋 圭二**



1962年6月10日、香川県生まれ。初めての合唱体験は、小学校校内合唱コンクールまでさかのぼり、以来丸亀高校時代には、指揮者として活躍、1981年、同志社大学法学部に入學と同時にグリークラブに入部する。パートは、ベース所属、昨年12月より第53代学生指揮者に就任。今年の11月、関西六連では、「Zigeunermelodien op.55」を情熱的に指揮し、部員の信望もあついでいた。

メッセージ

It's only male chorus……

前回のフェアウェルコンサートのメッセージにも述べた事ではあるが、近頃ますます私の心の中に大きな比重を占めるようになって来ているので、もう一度書かせていただく。

「遠い道程を行く旅人の外套を脱がせることができるのは、荒らぶる冬の北風ではなく、柔らかい春の陽射しなのだ。」

言うまでもなく、インソップの寓話からの引用である。旅人の外套、というのは、個人が自分の周囲に無意識の内に築いてしまう壁の様に思える。冬の北風、とは、強引さとか力の象徴だろう。春の陽射し、これは静かで昂ぶることのない優しさ、もっと大胆に言えば愛だろう。

我々の生活の中で、未だ音楽は「日常」たり得ない。周囲に音に満ちあふれてはいるが、我々は常に受け手でしかない。（本当は高売相手と言いたいのは、非日常であり「特別なこと」なのだ。音楽を聴いた者が示す最も健康な反応が、自分でもやってみることだと思うのだが。）

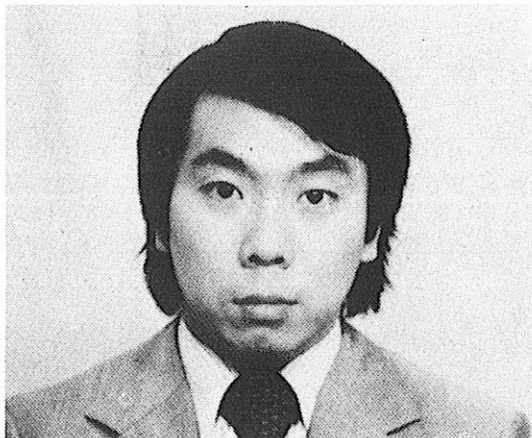
ここ数ヶ月間、練習始めの時のグリーメンの顔がちょっと良い。無理強いされるかの様な気が無く、純粋な意味で楽しそう。練習場に出て歌うということが日常の中にすんなりと、しかし確かにその位置を得ているみたいだ。練習時以外でも気軽に楽譜を開いたり、歌ってみるという姿が心なしか以前よりも頻りに目に映る。学生指揮者の欲目か？しかし私にはそんな些細な事がしみじみと嬉しい。

大上段にふりかぶった発言は信用できない。真理は物静かで日常的な言葉の中にあるのだろう。音楽は作られた「場」を必要としない。普段の生活に、死に、淡々とRhythm & Melody & Harmonyは息づき、そして宇宙を満たしているはずだ。だとすれば、同志社グリークラブはほんの少しだけ、音楽的になったに違いない。

だが、音楽と馴れ合うことは我々には許されない。コンサートを開く（そしてこの機会が定期演奏会であるという）必然は厳然として存在する。メンバー各自が個人という殻から踏み出して表現を行うのでなければ、今日の意味がない。願わくば、冬の夜空につつましくはあるが暖かい音楽の灯をともすことができますように。

P.S. We love you.

ピアニスト 久邇 之宜



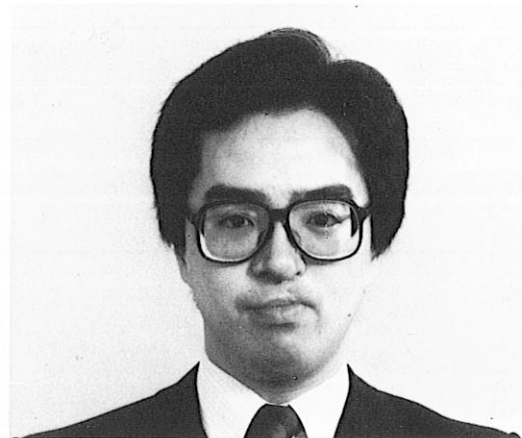
1972年、国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。二期会、東京室内歌劇団、NHK他各方面で伴奏者として活躍され、1981年6月、2年間のウィーン国立大学への留学を終え帰国された。今や歌曲のリサイタルには欠かすことの出来ないピアニストであり、又、福永陽一郎氏のおきパートナーとしても大学グリー等のピアノを受けもち先生の持つあたたかな、そして感受性豊かな音楽をおしげもなく発揮している。その美しい音色と力強いピアノタッチはレコード録音、NHK・FM放送等を通じて高く評価されている。

メッセージ

同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会を催されるにあたり、お祝いとともに、この盛大な行事に参加させていただいたことに対し、深く感謝いたします。このグリークラブの歴史で、私に、本当に目をみはらせるのは、ただ単に80年という長さだけではありません。その間に、幾多の偉大な先輩を輩出しつつ、またグリー自身も日本の合唱界を代表するという高いレベルを維持してきたことです。これは、もちろん、指導されてきた指揮者やヴォイストレーナー諸先生方の功績ですが、それとともに過去に在籍された幾多のグリーメンの文字通りの血のにぎむような努力があったと思われまふ。これだけのよき伝統を継承しなければならない現役のグリーメンの苦勞は、大変なものでしょう。でも対象が大きければ大きいほど、やりがいのあることなのです。今日、大学生という階層は、さほどめづらしい存在ではなくなり、また大学生自身も大学において、自分の目標を見失いつつあるという時に、4年間、合唱の世界に首までどっぷりとつかって過ごすということも、ある意味では、大変有意義なことなのです。

どうか、現役のグリーメン諸氏、過去の偉大な業績の上にさらに金字塔をうちたてて、そして、大学生活というものが決して無為ではなかったという満足感を持って卒業できるようなグリーライフを送って下さい。これは、多分に自惜の意味もあるのですが。

ピアニスト 長田 育忠



昭和58年同志社大学法学部卒業。学生時代から合唱、独唱の伴奏、礼拝でのオルガニスト等をつとめる。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一諸氏に、和声学を島田和昭氏に師事。現在、大学や一般の合唱団で伴奏者として活躍中。また合唱用の編曲も多く手がけている。今年の11月の六連でも伴奏をお願いして部員との息もびったりあっている。

メッセージ

同志社グリークラブ創立80周年おめでとうございます。幾多の困難を乗り越えて80年の歴史を積み重ねてこられた先輩諸氏、そしてその伝統を礎に日々努力を続けておられる現役のみなさんに心よりお祝い申し上げます。

私が初めて伴奏者としてグリークラブと出会ったのはまだ高校3年生の時、大学生ばかりの中でどうしようもなく緊張したのを覚えています。その後も何度か演奏会でステージを共にしましたが、そのたびにいつも感心するのはみなさんの音楽に対する集中力です。普段は愉快的な大学生ばかりなのに、真剣に音楽に取り組んでいる姿を見てみると、何故かとてもたのしく思えてくるのです。

今宵このような記念すべき演奏会に、一緒に勉強する機会を与えていただいた事に心より感謝するとともに、私もグリークラブの、みなさんの情熱に負けない演奏ができればと思っています。

ヴォイストレーナー 大久保昭男



昭和28年、東京芸術大学音楽科を卒業。矢田部勲吉氏に師事された。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕作指揮、オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。昭和34年にはドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイタルを開かれた。

現在、昭和音楽短期大学教授、東京芸術大学講師。又、慶應ワグネル、上智、立教、関学、同志社の各グリークラブ、早稲田コール・フリューゲル、法政アカデミー等、大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で広く活躍されている。

メッセージ

第80回定期演奏会を迎えられるにあたりまして、心より御祝申し上げます。

今年は東京でも定期演奏会をもたれ、立派な演奏を期待して居ります。

今年も四月にグリーメンとなった一年生が澤山クラブに入って来て、新しいながら次の大きな力となって歌って来ました。今は殆んど上級生と共に音楽を歌える様になり、グリークラブも定期の時が来ると安定します。

毎年同じ様に歌う力が出来た時に四年が卒業し、幼い声の一年生が入って来ます。しかし厳しい練習を重ねている中に、いつの間にか声一つになって歌う心が出来てきます。

今の上級生も一人一人がみんな同じ道を進んで来ています。音楽の勉強というものは、苦しみと忍耐とそして楽しさが混り合ったもので、苦しい中にもいつれ必ずやって来る大きな喜びが心のどこかにあるものです。

人間として生きるには、どの世界に於てもいつも何かの勉強を続けていくに必要な環境を自分自身で作らねば、幸いにも健康に恵まれた人々は、勉強する時間を感謝の気持ちをもって、二度とない「今」を大切に積み重ねてゆくべきだと私は信じて居ります。

今日も音楽する「今」が素晴らしい開花の時となって、心から魂を歌ってくださる様、祈っています。

ソプラノ 宮城 律子



大阪音楽大学声楽学部卒業。同学部専攻科修了。1983年、関西日仏音楽コンクール入賞。オペラは「真説カチカチ山のウサギ」、「カイロの鷺鳥」のアウレッタ、「子供と呪文」のリス役、その他83年霧島音楽祭オペラ講習会の「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役で奨励賞。1984年、「こうもり」のアデーレ役をつとめる。

安則雄馬、坂口菜里の諸氏に師事。1982年ウィーン滞在の際、発声をマヤ・マイスカ、オペラをオリベラ・ミリアコビッチに師事。NHK洋楽新人オーディション合格。現在、関西二期会準会員。

オルガン 住山玖爾子



神戸女学院大学音楽部ピアノ科卒業。学生時代よりオルガンを始め、ベルギー王立アントワープ音楽院に留学、ファースト・プライズを得て卒業。帰国後、NHKホール(東京)での録音をはじめ、NHK「夕べのリサイタル」音楽アルバム「オルガンとコーラス」等に出演。またヘンデル「メサイア」、バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」などで京響と協演。'82年にはパイロイトより招かれ「青年音楽祭」に参加。今年6月「'84アントワープカテドラルオルガンリサイタルシリーズ」に招かれアントワープカテドラルにて演奏会を行う。

現在、大阪芸術大学、名古屋音楽大学非常勤講師。大阪・玉造教会オルガニスト。

TOP TENOR



FROM SECOND 上を見るようなマナーの悪さを、なんとして下さい。(V.S) 私は同志社グリーのTOPが嫌いです。とこのもプロと手ばかりで、いつか嫌いなだけなく、ハッとされることが多いです。とても青年には覚えませんが、もっと悪さをほしひのです。それにシンフォニーの天井の色がやわやわで、いつか演奏中

- ① 梶原 昌彦 (4回生) この瞬間にグリー生活の全てを凝縮させます。全身全霊、音楽の喜びにあふれて、そして天の声「公務員やの〜」…思わず振り返るその甘い言葉。(50社も会社訪問しながらどこからも内定をもらえず、しかたなく左京区役所の手数料で生活することになりました。公務員やの〜)
- ② 河村 一良 (4回生) 昨年の定演は覆坊して新幹線で大阪まで行ったし、今年の会社訪問では部屋間違えて、役員会議中に飛びこんでバッテリーアウト! どうせ俺は「土地ころがし」や、ホットケ!! (彼がチロリアン河村です。今年もミサを唱えます。1曲目はKyrieです。そうですKyrie.Kyrie……)
- ③ 宮井 健 (4回生) 今年は、4ステージとも伴奏がついているから歌に集中できる。2年前の事件は、2度とくり返したくない。(こんなタケちゃんも、末は大学教授が!? でも阪急電車と駅のホームの間には落ちないようにね!)
- ④ 森 知史 (4回生) 過去三年間、歌と共に生きてきた私でしたが、最後の1年は「大腸菌」と一緒に。今年も、愛をこめて歌います。(一ぺん大腸菌さわってみ、めっちゃきたないで〜)
- ⑤ 佐々木 渉 (4回生) とうとう最後の定演になってしまいました。最後の曲の最後の音までおろそかにせず心をこめて歌いたいと思います。願わくばこの思いが客席にとどきますように。(彼の場合、音符をおろそかにしないということは必ず半拍、人より先に出るということです。)
- ⑥ 山中 光 (4回生) 炎熱商人の独白。メッセージ書くのも、さしいれらうのも、演奏会終わって楽屋口から出るとき、スターの気分を味わうのも、そしてカレソン歌うのもみんな最後。あ〜あ、しまいや、しまい。船

- ⑦ 二宮 孝之 (3回生) 来年の定演には、是非、一年じゅうの歌、おへそ、そして、HOW MANYいい顔を、なあ、神谷、自分の才能に気づかず、小学校の司会に甘んじているネクンでした。P.S. タカちゃん、あと少しだ 頑張りな! (たのむから、アイドル歌手みたいな歌い方でミサ歌わんとしてくれ。by オイケ)
- ⑧ 尾池 智治 (3回生) 「何をかくそう、僕がTOPのサブ・パートリーダーです。」 「え、それがどないしてん?」 「バカにしてるやろ、酒飲んで、あはれるぞ!!」 (パー練中にピアノのいすにあぐらをかかないで下さい。by ネクン)
- ⑨ 山田 成彦 (3回生) 私は、大学のクラブの選択をまちがえました。普通の男の子にもどりたいノでもちからいっぱい歌いま〜スノ趣味:ハヤのそうじとマネージ。出身:神奈川県鎌倉市。性格:まじめ、誠実、純粋。(本人のみ、そのつもり)
- ⑩ 前川 立弥 (2回生) 何が行動する度にクラブ内でひんしゅくを買ってしまう不幸な人間です。誰かボクを救って下さい。(同グリー1の人気者で、たっちゃん、たっちゃんと呼ばれていて、いつも部屋・御所で行んでいる。今年もひんしゅく大賞の本命である。)
- ⑪ 松本 裕士 (2回生) 鴨川には、4回もはまるは、W大とは乱痴気騒ぎするわ、毎日、人の下宿行って歌うわ、グリー一色の一年でした。(彼は、はっきりいって、ケチでロリコンです。人からもらいたバコばかりします。僕は、彼のような友人をもって大変迷惑です。by 外政サブO)

- ⑫ 三宅 厚志 (2回生) ああ、同志社の一角に、浦高健児ここにあり。早稲田にもあり、ワグネルにもあり。誰かがKGに入れば四連制覇なんだけれど、因みに、この世界に必要なのは、体力、気力、財力です。(彼は怖いもんなしの指摘マンと呼ばれています。四連では、あの渡辺暁雄先生をへこませ、最近では学指揮までもが意見を求めたしたとか。)
- ⑬ 富倉 智彦 (2回生) あっ、上にしか反響板がないんだ! う〜ん、横に反響板がなくなつて……。 (最近、彼は登部拒否症にかかっており、グリーの積木くずしといわれている。彼は、指揮を見て歌わないという噂があるが、今日のステージ、乞う注目!)
- ⑭ 山下 浩司 (2回生) グリーに入って約2年、白髪の数も増えてきました。四回生になって、全部白髪の人を見たら私と思して下さい。ゴボ、ゴボ……

新鮮野菜 “八百長” 24時間営業・富田駅前パチンコオレンジ横 ○同志社グリーの八百屋誕生。 演奏終了後ロビーにて即売!!

- ⑮ 干場 一博 (1回生) 高音では悲鳴を上げながらもTOPに置いてもらってます。半分義理とはいえ〇〇さん、来てくれてありがとう。(いつもスマート、いつもアイビー。同グリーの原辰徳とは彼のことです。)
- ⑯ 石井 元博 (1回生) あらゆる面において充実した一年でした。この感謝の想いを、今宵来てくださった皆様へ贈ります。(いつも陽気なミルクイ坊や。)
- ⑰ 桃井 茂樹 (1回生) 歌は素晴らしいものだと思います。ぼくもみんなと同じ言葉を使えるからです。東北地方代表のももいででした。(東北パワー炸裂!!彼はTOPの体操担当です。「福島は何が悪い。」)
- ⑱ 中西 健 (1回生) 今回始めて4ステージという大舞台に乗るので不安ですが、一曲一曲心をこめて歌いたいと思います。(合唱の名門伊勢高校出身。彼は同グリーの救世主になることができるか!?)
- ⑲ 八幡 諭 (1回生) 何処を向いても男の世界。ぼくは道を誤りました。誰か救いの手を差し延べて下さる人はいませんか? (僕は、八幡君の家へ泊まりに行きたくてたまりません。ウフン〜♥)

FROM BAS ほんまにええパートやデ、親切な外政もあるけ、いやなんか言ったことほない、パートリーダーサブも最高、知ってるか、エリ替え歌あるねん、同グリーそええオードイション、尾池にあたってさあ、たいへん、森が出てきて、

SECOND TENOR

ハイイ!こんにちは。同志社グリーのSecondです。日頃、Topに消されながら、また、指揮者にいじめられながらも、けなげに生きてます。各女子大の皆様、声援よろしく!



- 日比 敏也(IV) 「ダメよ、ズルイわ、私だけ裸にするなんて、ルール違反よ!! さあ、敏也ちゃんも脱ぎなさい。」 「あ!いや、そんな困ります。元幹事長!!」 「元幹事長はやめて、私、誠言して言うの」「ああん…」
- 中小路智一(IV) 今日、私がここに居る事ができるのは皆のお蔭です。有難う。(そうや、感謝して当然です。by Sec)
- 篠原芳兵衛(IV) 昨年のパート紹介は私が考え作成しました。今年のパート紹介には一つも手を出していません!?
- 辻 透(IV) どうです。こんなメッセージを書く連中のパーリーをつとめることが、どれだけ苦痛かわかってもらえるでしょ。
- 福原 伸司(III) Secの小姑と呼ばれ、文句ばっかし言っている僕ですが、やっぱりKyon Kyon好きなんだよ、ウフッ♡

- 木下 勝(III) 「先輩、シンフォニーのオルガン聴いたら帰ります」 by Yoshiko
- 久保 行央(III) そうです、私が会計やしているんですよ。融資の話、歩引きしまつせ。但し、女性のみ、Tel 075-711-7172直通 (今年ノルマ高いぞごまかしてんのとちがうか? by尾池)
- 中村 健史(III) 音楽は自己表現である。僕は今、歌で自分の全てを伝えたい。(そんなんでできるかアホ!!)
- 斎藤 篤(III) この熱い想いをたった40字でどれだけ伝えることができるのだろうか……今一瞬……君が好きです。
- 竹本 滋知(III) 我は愛で溢れている。愛に餓えている人々よ、私の歌を聴きなさい。あなたも愛でいっぱいになる。一吟愛楽人より。(僕も愛で一杯にして下さい。by竹野・大塚)

- 成田 宏司(II) 「赤まむし2本で4千円ね、それとサユリちゃんの指名料6千円」「とうとうやれるぞ!!よかったな生きてて、元気でよかったなア!!」
- 大野 浩一(II) 只今、コンサート当日、グリコ・森永製品をもってきてくれる人募集中です。尚、上の写真、好評発売中です。
- 杉田 政治(II) 「子供相手にひどい商売するよなア!! オレや2千円ポツキリだと思ってたぜ。」
- 高木 憲治(II) 謹賀新年、今年もまじめに、起立・礼・尺八髪は毛はえてよかったの〜滋大・田宮豊へ元旦
- 高梨 純(II) “音音楽”を志して早、1年半。今年も、腹筋が吊るまで、張りまくるぞ。(どこ張ってんねん!!(テント))
- 林 桂三(I) 名古屋はええとこで、一ぺん来てちょーでやー。

- 万代 優(I) 御来場のお客様に申し上げます。年末年始の暴飲暴食には注意しましょう。あしからず。
- 村山 聡(I) セカンドで、苦しそうな顔して歌っているのが僕です。
- 奥村 圭司(I) 「いやア、緊張するなア、初めてだもんなア、やっぱし、やさしくしてあげなきゃなア!」
- 奥村 康彦(I) 同志社グリーに入ったら女の子にモテる? 信じた僕が馬鹿でした。
- 大塚 正高(I) 僕は同志社グリーに入れて光栄です。今日はカ一杯歌います。
- 竹野 武彦(I) かんがくの〇〇え。わだの声に毒いられた。きいたら死ぬで。
- 吉田 照彦(I) 私は音を取るのが苦手です。歌詩を憶えるのも苦手です。しかし今夜は精一杯歌います。

FROM BARITON いやあ〜ノトップじゃないかノ知っておるノあそこは、いいパートだノ同志社のトップは、日本一のトップだノ誰か? 鳩鳥の皮だとか、できそこないのがちょうの声とか言ってる奴は、ノそんなものは、フィラデルフィアだノ

BARITONE



伊勢三十六(4回生) 高橋よ、バリトンがパー練さぼって茶店行ったくらいで、泣いて怒るな。ボケ! あんたこそ、そんな暇あったら、発声練習でもやったらワ。はつきり言って、あんたの声と顔きたないで。チャンチャン
大嶋 誠司(4回生) 夢中で4年間走り続けてきて、残ったものは数枚の楽符と夢の跡。しかしまた走り続ける、今日のゴール目指して…今夜はお前のために。これでカタキになれる。
山内 豊(4回生) いろいろ迷惑かけてしもうたけど、けっこう楽しゅうやってこれた。今日は思うぞんぶん歌いたい。(「みんなアンタが悪い。」byイセ。「いいえ、みんなイセさんが悪いのです。」by下級生一同)
藤野 寿男(3回生) 何も考えつきへん。私はアホです。(そんなもん分かっるとるわい。by神谷)
灰塚 弘(3回生) 青春とは、第一人生と第二人生の過渡状態である。今、第一の人生が終ろうとしている僕はあなた方に、精一杯の歌を聞いてもらいたい……。 (あてはもう第二の人生を歩んどるわい)
神谷 伸行(3回生) 合宿で千利休と言われても、僕の中には誠実な音楽がある。不誠実なきれいごとしか知らない音楽家には、素朴な聴衆の拍手しか聴えないに違いない。
森永 浩樹(3回生) 私はかいじん21面相は好きでない。その私のところへ次のような電報が届いた。「今宵よい演奏をしたら森永、ゆるしてやってよい」みんな、がんばろうナッ!
小木曾信之(3回生) 現実では、好きであるか嫌いであるかは問題ではありません。克服する能力です。好きであるのはラッキーです。
斉藤 高弘(3回生) 告白します。僕は未だに奈良女のあの娘が忘れられません。彼女のことを考えただけで、ぼ、ぼくはもう…え〜い、もうどうしてでもなれ。(斉藤さん、男たるもの、欲望に負けてはいけません。忍耐です。by内山)(末練がましいぞォー!!)
藤 浩和(3回生) 最近の同志社グリーンメンに最も欠けているもの—自信と誇り。最も悪いところ—自信がないのに、傲慢なところ。最もよく知っていること—合唱以外のこと。そして、最も自慢できること—練習量が多くて各自合唱バカであること。(あなたに一番良くあたってるわ!! by 外政)
内田 智之(3回生) 今シーズンは、ラグビーも日本選手権をとってメデタク、同志社グリーンも80周年でメデタイ。そして

て僕の成績も、ン、オメデタイ。(「アッソ」by松井)
橋 登社彦(2回生) 郷里輪島が離別早三年、予備校之先生曰ク同志社ハ絶対無理ヤ其学校於早二年同志社愚離苦楽部に入部未央二年、俺ノプラトニックな人生は、どこ行ったんや、返してくれ!
草野 真樹(2回生) 先日、単車に乗っててこけたけど、ムスコさんが地面にごすれて気持良かったなあ。病院に行ったら、先生が言いよった。「君の血の色は、まっ白やなあ。」(ざぶとん、全部持ってけ!)
奥野 和敏(2回生) 今日は魂を込めて一生懸命歌うで。Ex Maria Virgine…エ、へへ僕は白痴です。
梅村 雅彦(2回生) 1回のときから、ずっと合コンに出席していますが、ずっと収獲もありません。みなさん、合コンの梅村と呼んで下さい。
内山 透(2回生) 先日、駅前のトイレで用をたして爽快な気分になって出てきたら、どっかのガキが寄って来て言いよった。「や〜い、うんこ野郎!」僕は半泣きになりました。(内山よ、君がそんな馬鹿な男ではないことを、俺はよく知っているよ。by中西B)
山口 明彦(2回生) ぼ、ぼ、ぼくは山口というんだな。ぼ、ぼくは、か、看護婦がす、好きなんだな。で、でもぼくは看護婦よりも、み、右手の方が好きなんだな。(ワアッた、ワアッた)
西田 一慶(1回生) 「家庭の事情で、今日は休みます」by植田
佐々木義治(1回生) 僕は、この定演を第2の洗礼式として、グリーンメンであることを意識し、良き先輩となる第1歩にしたいと思っていますが、彼女が欲しい今日この頃です。
辻本林一郎(1回生) ぼく天才です。(しよもうないこと言うとなら、トランプしに行くぞ! by奥野)
上村 直也(1回生) 生協でチリ紙を買おうとしてナブキンを買ひ、生協のおばさんにひんしゅくを買ったのはこの僕です。トイレで気付いた時は、ほんまびっくりしたわ! (信州でラッキーしやがって。クソ! by 2回生一同)
梅田 隆司(1回生) 今でも、僕がグリーンクラブにはいることを友だち連中は不思議がる。でも、僕は歌を楽しめればいいんだ!! Mel, can you hear me?
吉岡 康彦(1回生) 前川さんって、体は子供だけど、顔はおっさんね。

本日は冬のさなか、お越し下さいまして、ありがとうございます。早いもので、今年も後わずかとなりましたが、今宵、1年の締め括りともいえるこの演奏会に、我らグロリアス・バリトン一同は、様々な思いを込めて、全力で挑みますので、「ブラボー」の一言、どうぞお忘れなく!
さてバリトンというパートは、伝統的に少々過激であり、異質な人間の集団なのですが、80年たった今日においても、立派にこの性質を受け継がれております。コンパがその顕著な例でして、一気飲みややり合いで下級生は廃人寸前に追いやられ、そのあと、鴨川にはめられて土左衛門になってしまった者もいるほどです。しかし先輩、後輩の仲は非常に良く、2・3・4回生入り乱れの乱闘事件を起こしたことなど決してありません。
以下、個人メッセージとなっておりますが、合唱を聞いていて眠たくて仕方がないという人は、どうか帰らないで、これでも読んで暇をつぶして下さい。

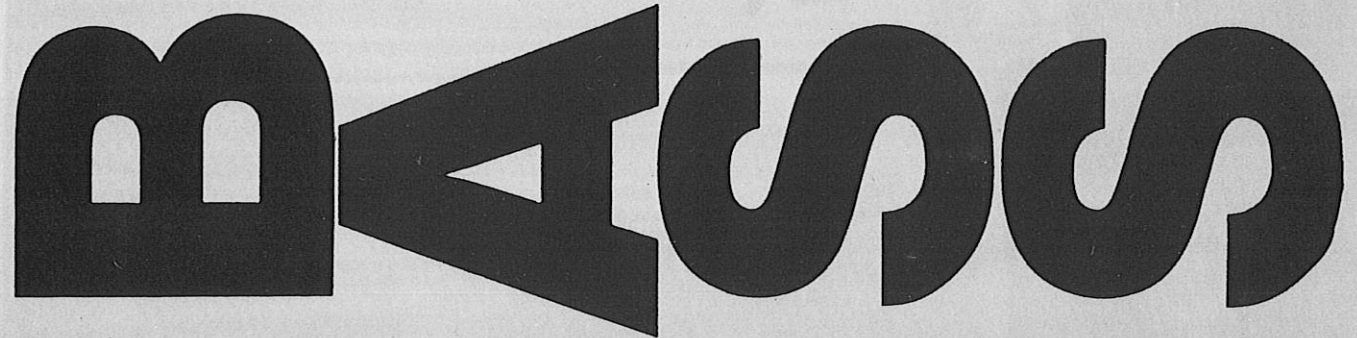
BASS

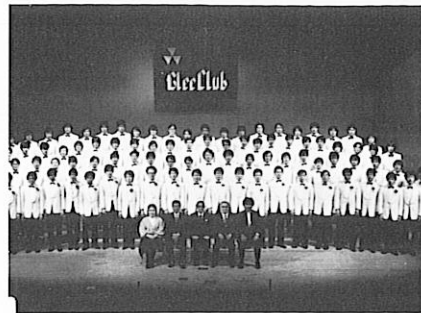
我等は、ここで歌えることに非常な喜びを覚えている。BASSは、愛を知る男たちのPARTである。BASSは、男声合唱で、愛を歌えるPARTである。言葉はいらない HUMMINGがあれば……。

青木 陽介(1回生)
ぼくはグリーンの中では、めずらしい都会人です。でもぼくは、日々ダサくなっていく自分を見てしまいます。
井上 裕文(1回生)
出身地は三木露風と同じ龍野、誕生日はマーラーと同じ7月7日、血液型はニャンニャンと同じB型です。
真鍋富太郎(1回生)
僕の友達に壁だけです。声は低いし、性格も暗いです。他に書くことありません。
森藤 泰生(1回生)
「私は指揮棒……。」やめた、別に書くことないがアー。ないがなんや。ないがあるがァ。
沖原 吉広(1回生)
「はじめまして、沖原吉広と申します。」
佐伯 盛一(1回生)
近頃では、まれに見る硬派人間です。で御来場の女子大生のみなさん安心して、06-871-0717迄 卍下さい。
武内 和朋(1回生)
今日は「緊張して声が出らんちゃ!」ち言わんでいいごつがんばるさね。
津崎 英治(1回生)
ただでさえ色気のない工学部人間が何の因果がこのクラブへ。もはや完全な禁欲主義者である。
中村 洋(2回生)
ステージに立つという事は全身全霊をこめて「I love you」と歌う事だ。ああ、スポットライトが身にしみる……。
中村 茂晴(2回生)
忙しい、いそがしい、イソガシイ!今日はバイトで喜べました。明日はバイトで明けるでしょう。

杉山 慎一(2回生)
ピアノをかかえポケットに手を入れてうつぶいで歩く。~サブP.L.の歩き方より~(P.S. AA40は最高や)
遠藤雄一郎(3回生)
僕は今、生活に困っています。バイトの紹介を頂ければ、いつでもどこでも自転車で参上します。(ちなみに私は会計です。)
加藤 栄嗣(3回生)
繁華街の近くに引越してから、歩いているとよく声をかけられるようになりました。「よう、お兄さん!今なら2千円だよ。」
小西 正俊(3回生)
私は、一年中歌っていても最後には、アりに助けてもらえるずる賢いキリギリスになりたい。(昭和のキリギリスより。)
松浦 悟史(3回生)
~あなたへ~思い出をいっぱいにかかえて、それでも僕は歩いています。それでも……。
田中紳一郎(3回生)
今日、聴きにきてくれた皆様、どうもありがとうございました。Bassの皆様、後期のパート練習への御協力に感謝します。
植田 慎一(3回生)
「情熱」はあたかもこうもりの如く、臆病なる翼にて壁を叩き、朽ちたる天井に頭をぶつけ彼方に飛び去る。でも、俺の「情熱」は確固たる「情熱」だ!
片岡 和彦(4回生)
11月23日、今、最後で最大の目標に向けて突っ走っている。最上の喜びに浸れる様に。最高の思い出となる様に。
久保田哲哉(4回生)
あ〜しんど。

中西 宏(4回生)
ヨット部ばかり勤めてきた父親が、今夜初めて客席に居ます。「親父、ありがとう。GLEE-LIFEに悔いはありません。」
中田 克之(4回生)
夢のあとに、何が残るのかわからないが、今、悔いはない。でもなぜか北風が身にしみる。
西尾 強志(4回生)
Ahこれが最後の定演。宴の後の一抹の寂寥感。全てを美化して甘いヒロイズムに浸ろうなんて思わない。願わくは今宵、僕だけを見つめていて欲しい。君が後悔しないために…。
白井 幸彦(4回生)
確かな感じがします。いくら考えても答なんて出ない。理由さえわからないのに、確かに感じます。そんな不思議を大事にしたい。
高橋 圭二(4回生)
べいすのアホどもえ。わだのこえに毒いれた。きいたら死ぬで。毒いりきけんみせんしいや。
田中光太郎(4回生)
どうでもええ、誰れもこわない、全部忘れて歌います。だまれ、うるさい、ほっとけ。朝が待ち遠しい、春が待ち遠しい、でもその前に歌わんと。わたしはコシボウ。
和田 秀樹(4回生)
貧乏神タカハシくんえ。おまえの今日の昼めに下剤いれたで。朝めしぬきのおまえはまんまと食いおった。かりた金わはよ返した方がええで。





フェアウェルコンサート

●フェアウェルコンサート

1984年の最初の演奏会であり、4年生にとっては、4年間のグリーライフの最後を飾るフェアウェルコンサートが2月18日に同志社大学学館ホールで開かれた。



春合宿

●春合宿

風光明媚、温暖の地、瀬戸内海国立公園の一角、和歌山は紀淡海峡を望む岬の先端。加太国民休暇村城ヶ崎荘。合宿に来て練習しにくい！同志社グリーにはまさに打ってつけの合宿所であった。



合唱祭

●オリエンテーション

我々グリークラブは、このオリエンテーション期間で新人捕獲大作戦を展開するのであります。できたてのホヤホヤの新鮮な女子大生を横目にしながら、むくつけき野郎、いや、かわいい新入生を求めて、ステージコートに蝶ネクタイのボーイさんスタイルで校内をねり歩く姿は同志社のオリチン物とさえ言われております。



陽ちゃん先生ファミリーコンパ

●六連運動会

5月3日(祝)大阪城公園Aグラウンドにおいて、五月晴れの中、盛大に六連運動会が行なわれた。我が同志社グリークラブも、過去2年間の雪辱を晴らすため勇んで乗り込んだ。グラウンドも前日の六連マナ+α(?)の整備により良好である。



東西四大学合唱演奏会

同志社の六連マナになった者が必ず思うことであるが、この慢性的運動不足の、やる気のない同

志社グリーの意識を変える方法はないのだろうか、頭いたあー!! (by 六連マナS and サブM) P. S. 来年の応援女子大の皆さん、こんな僕達ですが、こりずに応援してネ。(by 外政サブM)

●京都合唱祭

五月晴れの5月27日、絶好の行楽日和。この日、京都府は推定100万人の人出で!?ごったがえした。人、人、人の洪水。それらの人波は、すべて京都府会館へ向かっていった。苦は断じてない。しかし今年も京都合唱祭は1H、2Hを立ち見で埋めて華々しく開かれた。我が団は、皆川達夫編曲のウィクトリアのミサから Kyrie, Gloria を演奏し僅か5分のステージに全身全霊を込めて完全燃焼し尽した。

●東西四大学合唱演奏会

グリーメンにとっての前期最大のステージである東西四大学合唱演奏会は、今年、6月16日、大阪フェスティバルホールでおこなわれた。東の早稲田、慶應ワグネル、西の同志社、関学の4団によって構成される東西四連は、アマチュア合唱界の最大のイベントであります。

各団ともそれぞれ好評を博しましたが、わが同志社グリークラブは、福永一郎先生の指揮のもと、ピアノには、部員の願望がかなって、久瀧之直先生をお迎えすることができて、黒人労働歌「Four-Afro-American Songs」を演奏しました。メンバーは、ひとつびステージの上で、フットライトがあたると、それまでの苦しい練習もすべて忘れて、思いきり歌うことができ、大いに好評を博したのであります。

さて、これだけの演奏会ですと、演奏会終了後のメンバーの感動もひとしおで、打上げでは、盛り上がり過ぎ、多くの事件が発生しました。特に京都で行われた同志社-早稲田合同打上げコンパでは、早稲田の洗たく屋に始まり、最後には、コンパ会場のコップや食器をほとんど再利用不能にし、2度とこの会場には行けなくなり、中には、感動がおさまらず、同グリーメンバーの下中に住みつく者もあらわれました。(尚、このほかのコンパ会場のできごとは、すべて印刷所で掲載を断わられました。くわしい話は、部員から直接聞いて下さい)

しかし、何はともあれ、同志社グリーと早稲田グリーの友情は、一層、強いものになったのです。

●同立交歓演奏会

「おい、誰も迎えに来てへんぞ! どうやって移動すんねん?」東京駅新幹線ホームで立ち往生するグリーメン一同。迎えに来てくれる客の立教のマナーは影も形もない。(後に結局忘れていた事が判明) いきなり不安な幕明けの第23回同立交歓演奏会。マネミスの嵐が吹き荒れ、それを並べ尽くすともう一冊パンフが出来そう、思わずサングラスがはき起る中をさっそうと登場する同志社H氏は……もうやめとこ。

さて、昨年は京都大谷ホールに立教大グリーを迎えたのに対し、今年は東京中央区立中央会館へ乗り込みました。場内満員のお客を前にここで一発いい演奏をして80周年記念の新曲文化も成功させたい我等同志社は富岡健先生お得意のゴダイゴ男声合唱曲集を、対する立教は北村橋一先生の指揮により月下の一群をそれぞれ熱演しました。合同では、あのおこがれの皆川達夫先生に、先生ご編曲のウィクトリアのミサを振って頂き、一同天に昇る思いで歌い非常に印象に残る演奏会でした。その余韻から、レセプションでは同志社だけが一方的に食いまくって大ひんしゅくを買ひ、立教側の怒りがそろそろ表面化してきたのを潮時に(立教キャプテン氏は差し入れのオールドをラッパ飲みして氣勢を上げつつあった)速攻で逃げる様に八重洲口へ向かったのです。尚、東京に顔つなぎ役として残された外政サブ見込者数名は、立教グリーにめちゃんこかわいがって貰ひ、全身にマジックでオ○の絵をかかれ、4日後ようやく

白痴と化して宅急便でBOXへ送還されてきました。by S. M.

●演奏旅行

今年の演奏旅行は、8月7日 名古屋芸術創造センターで始まった。プログラムは、「雪と花火」「ゴダイゴ男声合唱曲集」ほかであったが、この日は、多数の方々いらしていただき、盛会のうちに終わったのである。

しかし8月8日、安中に入ると状況は、一転した。まず、食べ物屋さんで近所は一軒しかなく、この店に、2日間に5~6回入った者もあり、安中の町は、グリー景気においたのである。9日に安中市文化センターで演奏会を終ると、翌日は、軽井沢に観光に出かけたが、汚ない恰好で歩きまわり、逃げるように町を出たが、ついでに鬼押出しで、去年の欧州演奏旅行のくせが出て、思わず外で合奏、通行人の大喝を浴び何とか息をとりなおすことができた。

11日、前橋市民文化センターでは、東京クローバーとのジョイントが実現し、同夜の宴会では、クローバーの方々との話に花が咲いた。

こうして、東海クローバー、東京クローバー、県人会や教会の方々のご協力で、無事成功し、12日、安中教会での礼拝に参列し、最後のステージを終えた。

●夏合宿

残暑の厳しい夏の終り、9月5~10日にかけて信州野尻湖畔で今年も合宿です。福永先生も来て下さり、いよいよ80周年記念演奏会に向けての練習が始まりました。初日から順調に静かなP練・アンサンブルが続き、休憩時間も各自音をとるピアノの音が鳴り止むことがないという画期的な夏合宿でしたが、就職活動で抜けていた、鬼・悪魔・極道と恐れられる4回生軍団が徐々に上陸しはじめると極度に緊張が高まり、弁天島ボートレースでは湖にはめられる者が続出。指揮者T氏は「尾池をはめてくれ」と言い残し自らは陽ちゃん先生の部屋に立てこもるというセコさを見せつけましたが、勝手にもう終わったと思ひ込みノコノコと出て来たところを逆上した2回生軍団によって血祭りに会い、まさに人を呪わば穴二つなのでした。そして最終日前夜、なんと今年も雨が降り風も強く完璧の舞台設定で神聖なる洗礼式が挙行されました。

結果、迷える子羊の1回生は立派なグリーメンへと変身し、4回生は精魂尽き果て一気にオジジとなり、2回生バリエーションU教授のせ○ずり講座では直後にトイレに駆け込む者、歯を磨く者が多数出て、演奏マナ3代の血のつながりを証明したかの様でありました。(いったい、ホンマになんのこっちゃ?) こうして今年も合宿で寝るといふ規則正しい、有意義な夏合宿が無事終了、皆、平均2kgは太って、涼しい信州から秋を迎えてもっと涼しくなっていた京都へ帰って来たのでした。アレ? (by 外政M)

●六連演奏会

悪夢のような運動会から半年、そうです、同志社が、やっと六連で活躍できる場がやってきました。今年は単独ステージのトップを叩いてDvořákの「Zigeunermelodien (ジプシーの歌)」を演奏しました。まずまずの演奏に部員は飽きたらず、口々に定演ではもっと良い演奏をするんや(!!)といきまきました。

合同ステージでは潮路光一先生に指揮をお願いし、同志社の十八番「Kodály男声合唱曲」を演奏しました。更に六連マナによる新企画として、某国立大学の男声合唱団のステージコートを利用して人文字を作り、まずまずの成果をあげ、六連の新たな一面を見せ、六大学の交流は深まったのでした。

しかし、同志社グリーの差し入れの少なさに人気的一面を垣間みた感があります。P. S. 「山田さん、客席でつかし見て歌詩まちがえないで下さい。(by 外政サブM)」や「ぼしマリ chan 好きやし!! ヲフ♡」(by Narihiko)

●クローバークラブ演奏会

今年は、同志社グリークラブ創立80周年ということで、同志社グリークラブのOB会で組織されているクローバークラブが先立って記念演奏会を盛大に催した。その第一ステージで、グリークラブは、クローバーの十八番、ロシア民謡を歌い、

満員立見のお客様に大好評を博した。部員たちも前日の六連演奏会に引き続きの演奏会とあって意気揚々とホールに乗り込んだ末の結果で、定演に向けて大きな自信となった。しかし、一部では前日に朝5時まで飲んで神戸から帰ってきた不届者(某3回Secマネ)や10時の集合に、下宿で寝坊して遅刻してきた某Sec、サブPLなどクラブの前途を不安にする要素が表に露見したのも事実である。

●お座敷

グリーの正式なコンサートの他に、ラジオ、テレビ出演、パーティー、結婚式、そして小学校や高校などの音楽鑑賞会等に出演することを、グリーメンはお座敷と呼んでいます。今年は、昨年同様のハードな練習日程に重なって大変でしたが、同志社グリーの演奏を一人で多くの人に聴いて頂きたいという信念の下で、精力的に取り組んできました。

その甲斐あってか、只のもの珍らしさか、女子高生に握手を求められたり、サインを求められたりもすることもあり、Secの某3回生などは、それだけが楽しみでお座敷に苦悶しています。

また、お座敷はクラブの会計を支える重要な柱であります。今年、同志社グリークラブを呼んで下さった皆様方、どうもありがとうございます。

我団は日本全国どこにでも出張致しますので気軽にTELして下さい。075 (451) 9725 新町別館5F グリークラブまで (by 外政1)

●合コン・合ハイ

日頃、男だけの世界に生きるグリーメンにとって、最も楽しい救いのひとときが、合コン、合ハイなのです。

今年もハードなスケジュールの中、全国の女子大生と楽しい思い出づくりをしました。

風がおる五月にあったN女の合ハイ、T氏は、すけべ心を出してか、日頃の運動不足のためか、足首に全治2ヵ月(?)のケガをしたそうです。痛い痛いとおわくT氏に優しく美しい子が即座に手当をほどこし、あつかましくも新緑の公園で、ひざまくらをしてもらったそうです。それをいいことにT氏は体中が痛み出したきすってくれと哀願し、はては、お返しに「オレはグリーのケンシロウだ、気持ちの良くなる秘孔を授けてあげよう」とおわけのわからぬことをぬかしておったそう。

M女とのコンパでは、来年はたちの女の子から一気の勝負をうけ、日頃えらそうなことを云っている外政サブのT. O. M氏に互いに指を差し合い手に手をとって男立きした話は有名。また演奏旅行帰りのバブで、場を盛り上げようとTOP. 2のM氏はまじめな顔をしてミサを歌おうと提案、他人の迷惑おかまいなしにSoloを以て結局Agnus Deiまで歌い上げました。温かい拍手はT氏の彼女たちだけだったのを彼は知っているのか!!

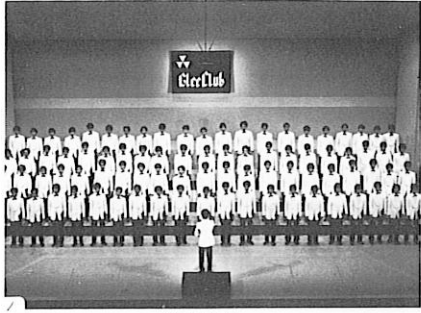
また一回生Y氏、ウルトラマンM氏は、中学生以来、女の子と喋ったことがなく、女の子に何か一言ささやかれるだけで(ちなみに彼らは自分から喋りません)耳まで赤くなるという純情さ、私は大好きです。長く見守って下さい。

さて我々は、悟りの深い休部中U氏の強い申し入れをうけて関学高等部との合コン、小学生との合コン、OLとの合コンを企画しております。お見合いも可 075 791 6170 (高木まで)。

だけど私は女子大生がいい。(まともな男より)

●全同志社メサイア演奏会

同志社グリークラブ、一年のしめくりとなるメサイア演奏会は、26日京都府会館にて行われます。グリーの男声、同志社女子大学メサイア研究会と一般公募による女声、オーケストラは同志社交響楽団と、まさに同志社づくめですが、一大学だけでメサイアを演奏するのは全国でもほとんどなく、それだけ期待の大きい演奏会となります。さらに今年は20回ということで、早川正昭先生を指揮者にお迎えし、バロック編成で演奏されるのも楽しみです。また、ハレルヤコーラスでは、聴衆と演奏者が一体となるすばらしい演奏会であり、年末の忙しさも忘れてしまいます。このメサイアの幕が降りると、84年のグリーライフの幕も降りるのであります。



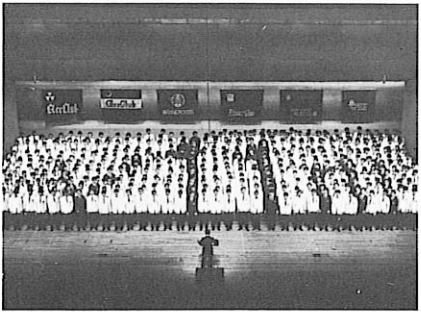
演奏旅行



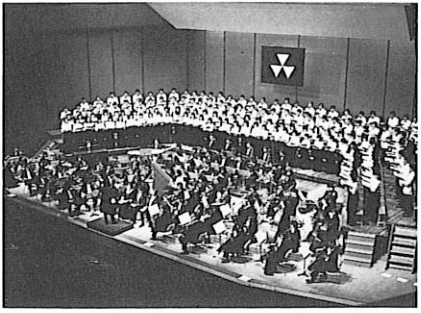
夏合宿



六連運動会



関西六大学合唱演奏会



全同志社メサイア演奏会



人生のクオリティも
語る家

家は外観の派手さで決まるものではない。とにかくあきのこない、永くつきあえる家がいい。そういう「重さ」が、家には必要だと思うのです。

生活のすみずみまで考えぬいた間取り。たんならなつくり。気取らないよさ。毎日の生活をごく普通に、しかし、しっかりと包みこんでくれるから、安心して暮らしをゆだねられる。

そういう家はどれも住み方のセンスのよさをはしばしにまで感じさせながら、大地にしっかりと根ざして見えます。流行ではけつして追い求められない、信頼できる「重さ」なんです。

どっしり。人生の年輪にふさわしい家。それは同時に、住む人の人生のクオリティを語る家でもあります。

家つて
重さの

注文設計の家

電建ホーム

日本電建株式会社

本社 〒104 東京都中央区八重洲2-10-3 TEL.03(272)0741(大代表)
●お問い合わせ先は 〒104 東京都中央区銀座7-11-12 日本電建(株) 東京支店 ☎03(571)8151(代)まで

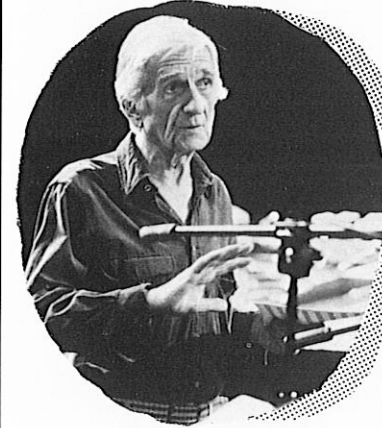


★ハガキに資料請求券を貼り、ご希望の小冊子名に、①住所②氏名③年令④電話番号⑤職業⑥建築予定地の有無を明記の上、左記までお申し込みください。お電話でもお受けいたします。

資料請求券

- 家づくり総ガイド
- 資金づくり総ガイド
- 公庫利用実例写真集

にっかつビデオ WORLD OF RHYTHM セール&レンタル



WORLD OF RHYTHM
LIVE CONCERT SERIES
GIL EVANS
AND HIS ORCHESTRA
ギル・エヴァンス・アンド・ヒズ・オーケストラ

RC-0002/57MIN.
ステレオ HI-FI
¥9,800



WORLD OF RHYTHM
LIVE CONCERT SERIES
LOUIE BELLSON
AND HIS BIG BAND
ルイ・ベルソン・アンド・ヒズ・ビッグ・バンド

RC-0003/55MIN.
ステレオ HI-FI
¥9,800

不滅のデューク
追悼10周年を記念して、今、ここに捧ぐ。
MEMORIES OF THE DUKE
＜全13曲＞



デューク・エリントン
RA-1004 モノラル HI-FI
81MIN.
¥12,800

にっかつビデオフィルムズ株式会社
〒107 東京都港区赤坂8-5-34 ☎03(479)1041(代)

関西支社 ☎06(345)2814(代)
広島営業所 ☎082(222)5851(代)
中部支社 ☎052(541)8375(代)
九州支社 ☎092(281)3033(代)
北海道支社 ☎011(221)8106(代)

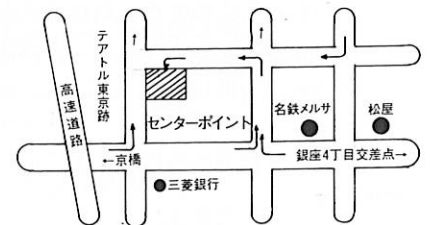
現代美術にふさわしい空間

東京 **センターポイント** 銀座

当面のスケジュール

- '84 12 / 10(月) ~ 22(土) 執行 正夫 展
 - '85 1 / 7(月) ~ 12(土) 堀内 菊二 展
 - 1 / 14(月) ~ 26(土) '85新構造版 展
 - 1 / 28(月)~2/2(土) 堀越陽子(立体) 展
 - 森 秀文(木版) 展
- [AM11:30~PM7:00、日曜日は休廊、祭日はオープン]

- 当面廊の特長
- 天井が高く壁面の凸凹が無く大きな作品の展示が可能。(天上高2.8m、壁面長30m)
- 照明位置の自由度が高い。



〒104 東京都中央区銀座1丁目8番2号 銀座ブルミエビル3F
TEL. 03-567-1858(展示場) / 03-564-3132(事務所)

gallery Center Point Premier Bld. 8F. 1-Chome 8-2 Ginza Chuo-ku Tokyo

— 60.61年度予約受付中

我々のグリークラブが今年で創立80周年を迎えた。めまぐるしい歴史の移り変わりの中で、輝かしい伝統を築き上げてきたのである。いかにしてグリーは生れ、いかにして発展してきたのか、又その背後にはいかなる苦勞があったのかを知ることは、我々の義務であると思う。「同志社」の3分の2を共に歩んできたグリーの80年間をふり返ってみよう。

草分け時代の明治34年頃、単に讃美歌を練習するための小さなグループが、グリークラブの母胎といえる。当時、同志社チャペルで大曲「復活の歌」が30名の合唱で演奏された。この音楽会は、京都の洋楽演奏会の発祥であると共に、グリークラブ誕生の前奏曲とでもいうべき、エポック的なできごとであった。次いで、東寮の寮長であった故片桐哲氏の指揮で、讃美歌の「花よりもめでたし」が8名の部員により、弁論大会の席上演奏され、ここに「同志社グリークラブ」の名は公にされたのである。また聖歌以外の曲も歌いたいという希望から「プリムローズバンド」が結成され、同志社イヴの前身である全同志社音楽会が、グリーとプリムローズの主導の下に開催された。

1917年に入ると、グリークラブの歴史上に輝くべく第1回の満州・朝鮮への演奏旅行が、故大中寅二氏らを中心として行われた。以後、日本国内はもちろん、中国、台湾などへ数回に渡って行われたのである。例年の送別演奏会で流れる「春の調べ」はこのころ誕生した。

昭和に入り、山田基男氏の下では数々の大曲が演奏され、1934年の30周年記念演奏会、同35年、森本芳雄氏指揮のヘンデル「メサイア」全曲演奏、同39年の35周年演奏会と戦前の黄金時代が築かれる。このころの会則の中に「練習は祈禱会を持って開始す」とある。いかに我々の先輩が真剣に合唱と取り組み、より高い神の栄光の讃美のために音楽をしていたかが、如実にうかがわれる。



'74 アメリカ演奏旅行

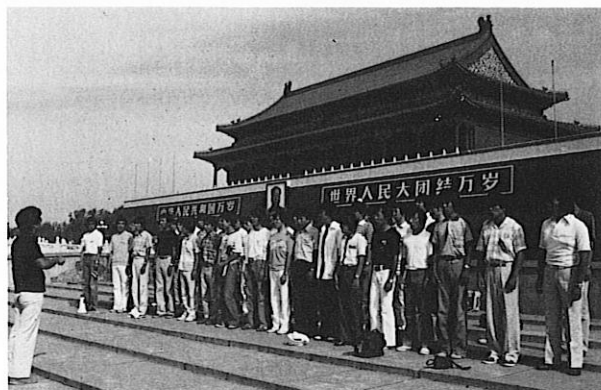
グリークラブとの交歓演奏会など、合唱界発展の一役を担った。1954年の50周年記念演奏会と、それを機としたOB合唱団「クローバークラブ」の誕生。同年11月、野村忠氏指揮による全日本コンクールV2。1957年、関学を関西コンクールで破っての全日本V3を達成する。河原林昭良氏の卓越した指揮の賜物である。

1960年6月、京都会館の開館に際しての定期演奏会では、森本潔氏の下、「南太平洋」などの名演が三千余の聴衆を魅了させた。このころからコンクール不参加。それは、限られた期間である学生時代のしかも、秋という絶好の活動時期に勝敗のために喜びを見出すよりも、もっと自由に合唱活動を行いたいという気運がグリーメンの間に高まった。又、福永陽一郎先生の御好意とグリーに対する愛情によって、技術顧問に就任される。このころの指揮者が、浅井敬壹氏である。彼の下ではグリー史上最多の部員を有するに至った。今日のグリーの布石を打ったといっても過言ではない。1964年、60周年記念音楽会が、京都大阪、神戸、東京で行われ好評を博す。翌65年のショスタコービッチの「十の詩曲」の名演は、今でも語りぐさとなっている。しかし60年代末、学園紛争の中、部員は激減し、冬の時代を迎

える。

1941年、戦雲の急と共に、グリークラブはプリムローズと合併し、新生「同志社大学男声合唱団」として、同10月、第1回の音楽会をもつ。しかし戦争の激化と共に、練習も途絶えがちとなり、音楽活動も中断のやむなきに至ったのである。

しかし戦後いち早く、その活動を再開し、イヴ音楽会や関西合唱コンクールに参加し、大躍進の第一歩となった。1950年、日下部吉彦氏指揮、コルネリウス「レクイエム」によって、初の全日本コンクール優勝を果す。また立教大学グリークラブとの交歓演奏会や同志社栄光館における第1回東西四大学合唱音楽会の開催や、宿命のライバル関西学院グリーク



'79 中国演奏旅行(天安門広場にて)



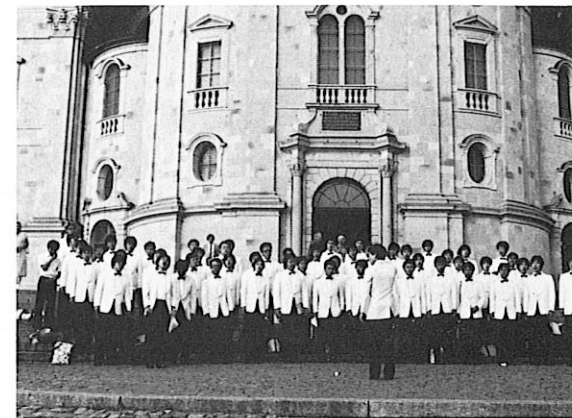
初代指揮者 故片桐 哲

える。

70年代の声と共に、同志社グリーは目覚める。これまでに多くの欧米諸大学の合唱団が同志社を訪れ、交歓演奏会を行ってきた。これは先輩たちの長年の努力の積み重ねによって同志社グリーの声価が、海外にとどろいているからである。1974年5月、ニューヨークとワシントンで開かれた、第4回世界合唱祭に招待され、戦後初めての海外演奏旅行を果たした。「さくら散る」の絶唱は、同志社グリークラブの名を一躍世界に高めた。1976年、800余名のOBを結集した現グリークラブOB会が発足。1979年夏、学生団体としては初めて中国へ出かけ、上海、南京、西安、北京を巡って演奏旅行を行った。1982年12月、大阪ザ・シンフォニーホールでの恒例の定期演奏会。そして去年の夏、同志社グリークラブは西洋音楽の源泉地ヨーロッパの舞台に立つ機会を与えられ、スイス、オーストリア、ハンガリーの3ヶ国へ演奏旅行を行った。ハンガリーでのコダーイの演奏は、圧倒的な支持を得た。今年11月、京都において、全国のOBが集い、80周年記念の演奏会を行った。

グリークラブは同志社とともにあり、同志社が永遠に存続する限り、グリーもまた90年、100年と、永遠に輝かしい歴史を積み重ねていくことだろう。

グリークラブは同志社とともにあり、同志社が永遠に存続する限り、グリーもまた90年、100年と、永遠に輝かしい歴史を積み重ねていくことだろう。



'84ヨーロッパ演奏旅行(アインジーデルンクロイスター教会にて)

同志社グリークラブ歴代指揮者

1 片桐 哲	19 内山 正作	38 桑山 博
2 浜田 格	20 沖口 優	39 西野 正教
3 平田 甫	21 内山 正作	40 高田 英生
4 水谷 央	22 織田 幹雄	41 目 秀雄
5 露口 四郎	23 日下部吉彦	42 富岡 健
6 湯浅 永年	24 間淵 孝志	43 大畠 功
7 山口 隆俊	25 寺本 和市	44 山口 正
8 三輪 雅夫	26 渋谷 昭彦	45 山下 裕司
9 森本 芳雄	27 野村 忠	46 林 宏之
10 山田 基男	28 河原林昭良	47 樋上 雅人
11 岸田 治夫	29 市島 章三	48 千代沢修一
12 今西善治郎	30 森本 潔	49 池尻 隆弘
13 太田 三郎	31 浅井 敬壹	50 芦田 直幸
14 千葉 昌良	33 中川 清	51 楠 敏也
15 大槻 彰	34 中野 皓夫	52 須藤 彰治
16 遠藤 彰	35 渋谷 和彦	53 高橋 圭二
17 岸田 耕一	36 太田 睦夫	
18 前窪 一雄	37 広野 寛	

「80周年に際して」 同志社グリークラブ幹事長 藤 浩和

およそ、同志社グリークラブ80年の歴史の中で、私共現役ほど恵まれたメンバーはなかったのではないのでしょうか。日頃から御指導をお願いしています先生方や、80年の積み重ねで今日までの伝統を築いてこられた先輩方、その他各地方方面での関係者の方々の、温かい御支援のために、私達は安心して日頃のクラブ活動ができ、好きな合唱を心ゆくまで歌うことができるのですから。このような素晴らしい環境の中で歌うことができる合唱団は、そう数多くはないでしょう。

先日、京都で行われました創立80周年記念演奏会及び祝賀会で、私共現役は、先輩方のすばらしく楽しい演奏をお聴きすることができました、と同時に、色々な意義深いお話を伺うことができました本当にありがとうございました。私共がこの時に感じたことは、同志社グリークラブ誕生以来、唯一つだけ変わっていないことを挙げるとすれば、それは、合唱音楽が本当に好きな者が集まったクラブか同志社グリーなのだ。しかし、いくら好きな者同志が集まったとは言え、私共は学生であり、アマチュアなのです。そうした無力で非力な私共を、常日頃から御支援を賜っている諸先生方、先輩諸氏の御期待と努力に応えるには、私共は合唱音楽に対する熱い情熱とひたむきな努力、そして自分達の無力さを知ってはじめて可能なのです。

今年同志社グリークラブ創立80年とは言っても、別に年を取ったわけではなく、常に「若草」のように新鮮で可能性に満ちた存在であるよう、さらに努力することを覚悟に、新たな一歩を歩みたいと思います。

※このページを作成するにあたり、快く御協力していただきました諸先輩方、その他関係者の方々にこの場を借りましてお礼申し上げます。

12/2日~1/31日(木) レストラン **グレース**
5:00p.m.~10:00p.m. 南館B1

但し12/31~1/3は迎春バイキング¥6,000・¥7,000(税・サービス料別)

グレース スター ライト
バイキング



料金
 ・大人 ¥5,000
 ・小学生 ¥2,500
(税・サービス料込み)

RESTAURANT
Grace

ご予約・お問い合わせは
 レストラン業務課(内線2296)
 グレース (内線2229)

京都ホテル

〒604 京都市中京区河原町御池 ☎(075)211-5111

レパートリーは
 愛の二重奏から夢のシンフォニーまで。



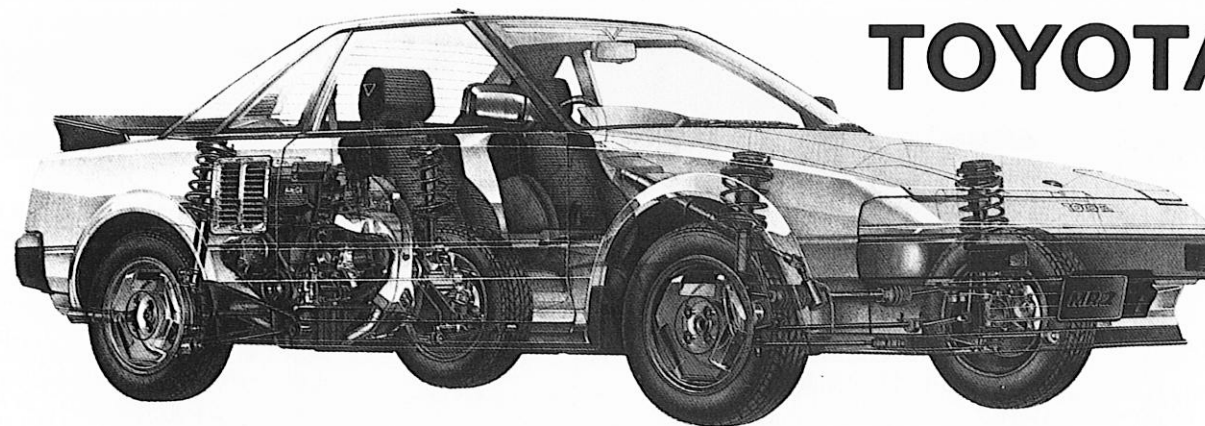
あなたの街の **玉姫殿**

PS osaka photo

(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
 TEL 06(443)7608(代表)

TOYOTA®



トヨタカラー南海株式会社
 〒592 堺市浜寺諏訪ノ森町西1丁目7番地
 TEL. 0722-61-8881代表

トヨタカラー新大阪株式会社
 〒532 大阪市淀川区東三国3丁目10番21号
 TEL. 06-393-0121代表

トヨタオート南海株式会社
 〒592 堺市浜寺諏訪ノ森町西1丁目24番地
 TEL. 0722-63-2021代表

●取扱車種 カラー、セリカ、カムリ、カラーII、タウンエース

●取扱車種 チェイサー、スプリンター、スターレット、MR-2、ライトエース

トヨタビスタ南海株式会社
 〒592 堺市浜寺諏訪ノ森西1丁目5番地
 TEL. 0722-62-8888代表

トヨタビスタ新大阪株式会社
 〒572 寝屋川市池田北町15番25号
 TEL. 0720-28-1331代表

●取扱車種 クレスタ、ビスタ、ターセル、MR-2、ハイエース、プリザード

- 1983年12月17日 第79回定期演奏会
- 20日 第19回全同志社メサイア演奏会
- 25日 滋賀水口教会クリスマス礼拝
- 1984年2月18日 第79回卒業生のためのフェアウェルコンサート
- 19日 大久保昭男先生就任20周年記念パーティー
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列
- 25~30日 春合宿
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列
- 16日 ALL DOSHISHA CHORUS FESTIVAL
- 22日 神戸女学院大学コーラス部と合ハイ・合コン
- 28日 対面式
- 5月3日 関西六大学合唱連盟運動会
- 5日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合コン
- 6日 甲南女子大学コーラス部と合ハイ・合コン
- 10日 京都部会Bブロック練習見学会
- 12日 武庫川女子大学コーラス部と合コン
- 18日 今熊野小学校音楽鑑賞会
- 20日 聖和女子大学コーラス部と合コン
- 20日 京都文教短期大学女声合唱団と合コン
- 27日 第21回京都合唱祭
- 6月3日 京都部会大学フェスティバル
- 16日 第31回東西四大学合唱演奏会
- 7月8日 第23回同志社グリークラブ・立教大学グリークラブ交歓演奏会
- 8月7~12日 演奏旅行
- 7日 名古屋演奏会
- 9日 安中演奏会
- 11日 前橋演奏会
- 12日 安中教会讃美礼拝
- 9月5~10日 夏合宿
- 23日 朱雀第一小学校音楽鑑賞会
- 24日 京都府合唱連盟スポーツ大会
- 24日 帝塚山大学コーラス部グロリアと合コン
- 29日 メサイア結団式
- 10月4日 IBC-TRIO'84レセプション
- 6日 姫路別所高校音楽鑑賞会
- 13日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合コン
- 20日 華頂短期大学女声合唱団と合コン
- 11月3日 関西六大学合唱演奏会
- 4日 同志社グリークラブ創立80周年記念クローバークラブ演奏会
- 7日 大阪女学院創立百周年記念式典
- 10日 大阪樟蔭女子大学コーラス部と合コン
- 14日 三木高校音楽鑑賞会
- 23日 奈良女子大学音楽部と合コン
- 12月17日 創立80周年記念定期演奏会
- 21日 創立80周年記念定期演奏会
- 22~25日 ディナーショー出演
- 23日 滋賀水口教会クリスマス礼拝
- 26日 第20回全同志社メサイア演奏会
- 1985年2月16日 第80回卒業生のためのフェアウェルコンサート

- 大阪・ザ・シンフォニーホール
- 京都会館第1ホール
- 水口文化芸術会館
- 同志社大学会館
- ホテルサンフラワー京都
- 同志社栄光館
- 和歌山加太国民休暇村
- 同志社栄光館
- 同志社大学会館
- 大阪城公園
- 京都教会
- 大阪城公園
- 京都・サーカス
- 服部緑地
- 同志社大学新町別館401
- 梅田・うつのみ屋
- 今熊野小学校
- 梅田・うつのみ屋
- 河原町・ワインリバー
- 京都会館
- 立命館・校野グラウンド
- 大阪フェスティバルホール
- 東京・中央会館ホール
- 名古屋市芸術創造センター
- 安中市文化センター
- 前橋市民文化センター
- 安中教会
- 信州野尻湖畔
- 朱雀第一小学校
- 立命館・衣笠グラウンド
- 梅田・うつのみ屋
- 同志社大学新町別館
- 烏丸京都ホテル
- 別所高校
- 京都・いろはかるた
- 京都・がんこずし
- 大阪フェスティバルホール
- 京都シルクホール
- 大阪フェスティバルホール
- 梅田・スーパー100番
- 兵庫・三木高校
- 京都・いろはかるた
- 東京・新宿文化センター大ホール
- 大阪・ザ・シンフォニーホール
- 大阪・ロイヤルホテル
- 水口文化芸術会館
- 京都会館第1ホール
- 同志社大学会館

- 顧問 遠藤 彰
- 技術顧問 福永陽一郎
- 指揮者 富岡 健
- アドバイザー 大久保昭男
- 幹事長 藤 浩和
- 外 政 松浦 悟史
- 斎藤 斎
- 山田 成彦
- サ ブ 松本 裕士
- 奥野 和敏
- 高木 憲治
- 内 政 植田 禎一
- 会 計 遠藤雄一郎
- 久保 行央
- サ ブ 橋 登社彦
- 山下 浩司
- 演奏旅行 福原 伸司
- サ ブ 内山 透
- 資料OB 木下 勝
- サ ブ 前川 立弥
- ステージ 斉藤 高弘
- サ ブ 大野 浩一
- 文連常任 高梨 純
- メサイア 加藤 栄嗣
- 中村 健史
- 杉田 政治
- 学生指揮者 高橋 圭二
- 学生副指揮者 神谷 伸行
- TOP P.L. 森 知史
- サ ブ 尾池 智治
- SEC.P.L. 辻 透
- サ ブ 竹本 滋知
- BARI.P.L. 山内 豊
- サ ブ 灰塚 弘
- BASS P.L. 片岡 和彦
- サ ブ 田中紳一郎



- TOP TENOR**
- 梶原 昌彦 (法4) 小林 正明 (法3) 高 規 高
- 河村 一良 (商4) 小杉 泰幸 (法3) 室 蘭 高
- 宮井 健 (工4) 尾池 智治 (法3) 泉 陽 高
- 森 知史 (工4) 大畑 泰年 (工3) 旭 南 高
- 佐々木 涉 (商4) 山田 成彦 (経3) 湘 南 高
- 松本 裕士 (工2) 松本 裕士 (工2) 同志社香里高
- 前川 立弥 (商2) 立弥 (商2) 関西大付高
- 三宅 厚志 (法2) 厚志 (法2) 浦 和 高
- 富倉 智彦 (工2) 智彦 (工2) 同志社香里高
- 山下 浩司 (経2) 浩司 (経2) 関西大付高
- 干場 一博 (工1) 一博 (工1) 京教大付高
- 石井 元博 (商1) 元博 (商1) 同志社香里高
- 桃井 茂樹 (法1) 茂樹 (法1) 安 積 高
- 中西 健 (商1) 健 (商1) 伊 勢 高
- 八幡 論 (商1) 論 (商1) 芦 屋 高
- SECOND TENOR**
- 日比 敏也 (経4) 大 府 高
- 中 路 智一 (法4) 大 教 大 付 高
- 篠原 芳兵衛 (商4) 大 和 川 高
- 辻 透 (商4) 洛 北 高
- 福原 伸司 (工3) 井 口 高
- 木下 勝 (法3) 金 沢 星 稜 高
- 久保 行央 (経3) 同志社香里高
- 中村 健史 (法3) 紫 野 高
- 斎藤 斎 (経3) 同志社香里高
- 竹本 滋知 (法3) 国 府 高
- 成田 宏司 (工2) 四 日 市 高
- 大野 浩一 (工2) 愛 光 高
- 杉田 政治 (工2) 同志社香里高
- 高木 憲治 (商2) 東 山 高
- 高梨 純 (法2) 東 豊 中 高
- 林 桂三 (工1) 瑞 陵 高
- 万代 優 (経1) 東 山 高
- 村山 聡 (工1) 東 稜 高
- 奥村 圭司 (商1) 名古屋北高
- 奥村 康彦 (商1) 菊 里 高
- 大塚 正高 (商1) 長 良 高
- 竹野 武彦 (法1) 高 松 商 高
- 吉田 照彦 (工1) 比 叡 山 高
- BARITONE**
- 伊勢三十三 (文4) 篠山鳳鳴高
- 大鳴 誠司 (商4) 小 倉 高
- 山内 豊 (商4) 桜 塚 高
- 藤野 寿男 (工3) 山 口 高
- 灰塚 弘 (工3) 同志社香里高
- 神谷 伸行 (文3) 中 村 高
- 森永 浩樹 (文3) 綾 部 高
- 小木曾信之 (工3) 長 良 高
- 斎藤 高弘 (文3) 藤 島 高
- 藤 浩和 (経3) 筑 紫 高
- 内田 智之 (法3) 鎌 倉 高
- 橋 登社彦 (法2) 輪 島 高
- 草野 真視 (商2) 西南学院高
- 奥野 和敏 (商2) 上 宮 高
- 梅村 雅彦 (経2) 門 真 西 高
- 内山 透 (法2) 三 島 高
- 山口 明彦 (工2) 高 松 西 高
- 西田 一慶 (経1) 乙 訓 高
- 佐々木義治 (商1) 彦根東高
- 辻本林一郎 (商1) 津 西 高
- 上村 直也 (文1) 福 岡 高
- 梅田 隆司 (経1) 北 野 高
- 吉岡 康彦 (法1) 若 狭 高
- BASS**
- 片岡 和彦 (経4) 小 倉 高
- 久保田哲哉 (工4) 三 池 高
- 中西 宏 (文4) 上 宮 高
- 中西 雅樹 (経4) 泉 北 高
- 中田 克之 (法4) 交 野 高
- 西尾 強志 (文4) 上 宮 高
- 白井 幸彦 (法4) 福 崎 高
- 高橋 圭二 (法4) 丸 亀 高
- 田中光太郎 (経4) 佐賀西高
- 和田 秀樹 (経4) 益 田 高
- 遠藤雄一郎 (工3) 米 子 東 高
- 加藤 栄嗣 (法3) 米 子 東 高
- 小西 正俊 (商3) 同志社香里高
- 松浦 悟史 (文3) 東 大 津 高
- 田中紳一郎 (工3) 住 吉 高
- 植田 禎一 (法3) 郡 山 高
- 北川 浩 (経2) 長 浜 北 高
- 中村 中村 (文2) 同志社高
- 中村 茂晴 (工2) 山 崎 高
- 直木 幸生 (工2) 清 風 高
- 杉山 慎一 (経2) 同志社香里高
- 戸田 秀樹 (工2) 同志社香里高
- 青木 陽介 (商1) 箕 面 高
- 井上 裕文 (商1) 龍 野 高
- 真鍋富太郎 (経1) 観音寺第一高
- 森藤 泰生 (商1) 丸 亀 高
- 沖原 吉広 (経1) 茨 木 高
- 佐伯 盛一 (文1) 同志社香里高
- 武内 和朋 (文1) 日 田 高
- 津崎 英治 (工1) 八 鹿 高

同志社グリークラブ
第80回卒業生のためのフェアウェルコンサート

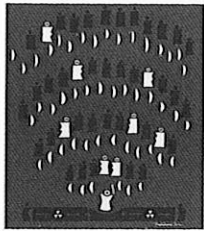
1985年2月16日(土) 5:30PM 開演
同志社大学会館ホール (入場無料)



松浦 山田 斎藤

この一年間は、あっという間に過ぎてしまいました。この間には、本当に多くの方々にお世話になりました。そして、ようやく本番をむかえることができました。今日まで、私達は、決して満足いくマネージができたとは言えません。しかし、あとはステージですばらしい音楽を歌う——これが、私達の最後にしなければならないことだと思っております。

最後になりましたが東京クローバーの木下先輩を初めとするOBの方々、快く原稿依頼に応じてくれた諸先生方、又、プログラム編集で最後まで御迷惑をおかけした根津社長、江田さん、その他関係各位に、この場を借りて、心より御礼申し上げ、また今後とも、同志社グリークラブの御指導の程どうかよろしくお願い申し上げます。



●表紙デザイン 徳川義真氏

1934年、ベルリン生れ。1969年、銀座月光荘にて第1回個展、1981年、狸穴画廊にて個展（油彩）。その他プラスチック製品のデザイン設計や、グリーティングカードのイラスト制作などで活躍されている。

祝80周年記念定期演奏会

ひとつの製品を完成させるにあたり、各分野の専門スタッフが、全力を傾注しています。正確に、スピーディに、しかも、密度の高いものを目指し、ひとつの輪は、今日も明日もたゆまず動きつづけます。

いま、何かをお求めなら

グリーンメンの良きアドバイザー。

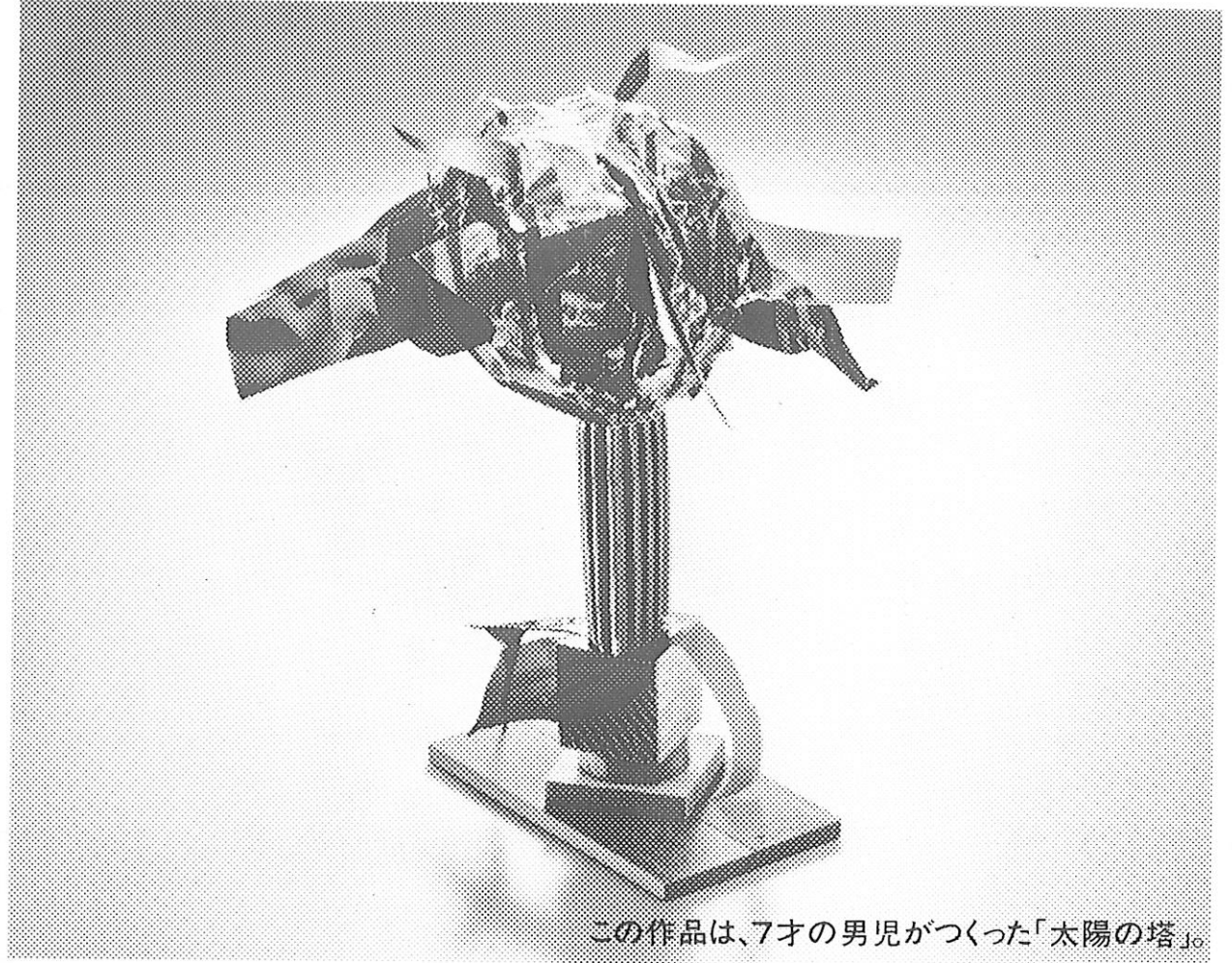


印刷を通じて気さくなおつきあい

中央印刷株式会社

本社・企画室 ☎542 大阪市南区谷町6丁目6番7号 TEL. 06 (763) 2632(代)
事務所・工場 ☎593 堺市鳳東町5丁487-56 TEL. 0722 (73) 1151(代)

いま、出光は、総合エネルギー企業へ。



この作品は、7才の男児がつくった「太陽の塔」。

知恵は、無限のエネルギー。

新しいモノをつくりだそうとする自由な発想とひたむきな努力は、ときとして、知識を超えた素晴らしい「知恵」を人間に与えてくれます。出光は、こうした「知恵」こそが、あすをひらく限りないエネルギーになると信じています。

私たちの暮らしを支えている大切な石油。出光は、この石油の安定供給はもとより、日本のエネルギー資源確保というテーマに向って、海外では石炭開発・ウラン開発、国内では地熱開発などにも積極的に取り組んでいます。

出光は、これからも企業の知恵を結集し、石油を中心とした総合エネルギー企業をめざし、努力を続けてまいります。

出光

出光興産株式会社